

あいりん地区におけるこどもからみた
コミュニティ再生に関する研究報告書

近畿大学 建築学部 地域マネジメント研究室

資料③

第一章 はじめに

- 1-1 研究背景・目的
- 1-2 論文の構成
- 1-3 既往研究
- 1-4 本研究の位置付け
- 1-5 調査の概要
- 1-6 用語の定義

第二章 地域概要

- 2-1 地域概要
- 2-2 対象地域の歴史
- 2-3 昨今のまちの動き
- 2-4 あいりん地区とこどもたち

第三章 こどもからみたコミュニティ形成に関する意識について

- 3-1 「まちづくりアンケート」調査概要と目的
- 3-2 こどもからみた地域の居場所とコミュニティ
- 3-3 保護者からみた地域の居場所とコミュニティ
- 3-4 教員からみた地域の居場所とコミュニティ
- 3-5 小括

第四章 こどもの支援施設からみた地域のこどもの居場所 調査内容

- 4-1 地域のこどもたちの居場所 概要
- 4-2 対象者のまち・交流機会に関する意見
- 4-3 小中一貫における地域学習中にみるこどもとまち
- 4-4 小括

第五章 まとめ

- 5-1 総括
- 5-2 参考文献

謝辞

資料編

資料③

一章：はじめに

一章 はじめに

1-1. 研究背景・目的

近年、女性の社会進出や共働き世帯、ひとり親世帯が増加し、子どもが一人もしくは子ども同士で過ごす時間が増加している。一方で、子どもの貧困が社会問題化しており、子どもたちが大人とふれあい成長していく機会や子どもの状態異変に気づく場が減少している。このような状況において、子どもが自由に他者とふれあい学び、体験することのできる「場」、そして子どもの変化に気づくための『居場所』が必要とされている。しかしながら、その重要性が言われているものの、減退化するコミュニティにおいては、人材や資金確保などが課題となって具体的な実践方法が見えない現状もある。

大阪市西成区あいりん地区は高度経済成長期から「単身日雇い労働者のまち」として日本の経済を支え、日雇いという形態からバブル経済が崩壊以後は求人が大幅に減少し、路上生活者が多くいるまちともなった。一方で、近年では高齢者や様々な問題を持つため働けない人々が生活保護を受給するようになったため、労働者が減少し、簡易宿泊所であった建物が「福祉アパート」「サポートティブハウス」といった生活保護向けの住居に転用されており、釜ヶ崎は「単身日雇い労働者のまち」から「福祉のまち」へと見方を変えられつつある。このような多様な受け皿があるところがこの地域の魅力・強みとなり、今では高齢者に限らず、ひとり親世帯、外国人、様々な問題を抱えている人など多様な形態の受け入れ体制や福祉のネットワークが張り巡らされているまちである。

しかし、依然として大阪市内で比べても特に西成区はこどもや子育て層の少ない地域で、まちづくりビジョンの一つに「こどもの声が聞こえるまち」が掲げられている。

そこで本研究では、大阪市西成区あいりん地区のこどもたちの居場所についての現状把握や地域とこどもたちの関係性、また今後のまちづくり（コミュニティづくり）におけるこどもたちの在り方について整理分析することで、施策や具体的な地域活動に対する知見を得ることを目的とする。

1-2. 論文の構成

本論文の構成は以下の通りである。

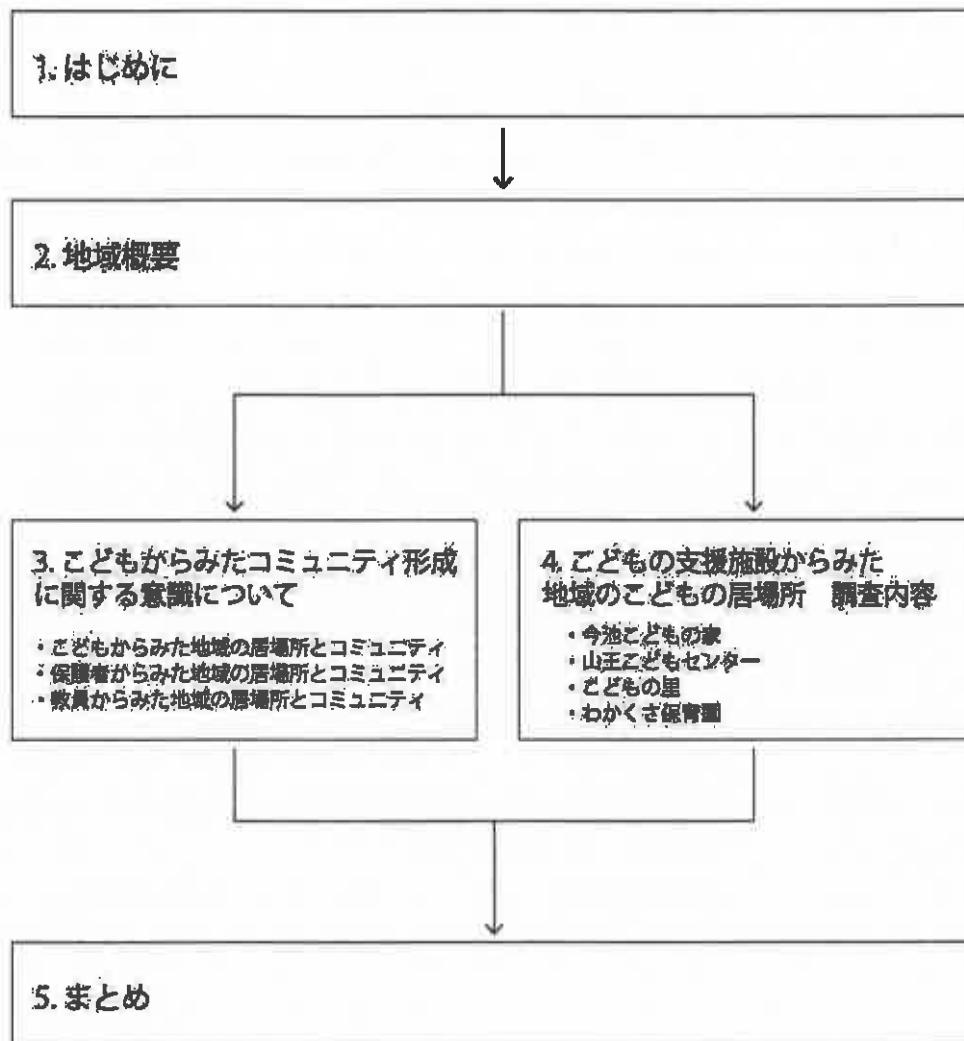


図 1-1. 論文の構成

1-3.既往研究

教育心理学の分野において、杉本・庄司(2006)^{*1-1)}は、居場所の心理的機能の尺度として居場所の要素6項目に分類した。

建築学においては、2010年に発刊された「まちの居場所」において、橋^{*1-2)}により11の居場所の特性が挙げられている。

表1-2 居場所の要素項目

| 教育心理学 | 本調査での質問事項 | 建築学 | | |
|-----------|---|---------------------------------|---|---|
| a.被受容感 | ケ 一緒にいる人が仲間だと思うところ サ 自分を理解してくれる人がいるところ | 1 防 れ や す い 事 | 2 多 様 な 過 ご と き が 可 能 | 3 8.キーパーソンがいること 8.キーパーソンがいること |
| b.精神的安定 | ア 気持ちがホッとする ウ 楽しい、嬉しい、安心できるところ キ 無理せずに入られるところ | | | |
| c.行動の自由 | イ 新しいことを体験できること オ 自分が好きなことができる ク 好いものが手に入るところ | | | 5.自分らしく居られる場所 4.多様な人の多様な活動に触れられること 7.参加できる場であること 5.自分らしく居られる場所 |
| d.思考・内省 | カ なにもせずボートでできるところ ス 自分の事について考えられるところ | | | |
| e.自己肯定感 | エ 自分が「～できる」と思えること シ 自分の役割や価値があるところ | | | 6.社会的関係が作り出されること |
| f.他者からの自由 | コ 誰にも邪魔されないところ | | | |

*建築学の「9.柔軟であること」、「10.地域との接点がもたらされること」、「11.物語が蓄積されていること」の要素はヒアリングから抽出することとする。

しかし、杉本・庄司の研究は場を設定せず、アンケート調査により「居場所」全般を対象として調査しており、橋の研究では 場を設定し19のケーススタディからこれらを分析しているものの、利用者本人の意識や視点は除かれている。

本研究では第3章まちづくりアンケートにおいて、あなたの居場所での気持ち（その場所が好きだと思う理由）として、上記の教育心理学からみる居場所の要素から選択肢全13個を検討し、またその選択肢を建築学からみる居場所要素に振り分けることとする。

寺川による「居場所」の定義は、『主に空間・時間・関係において現れる「場」として「社会的居場所」と「個人的居場所」に分類され、①アイデンティティ／「自己」という存在感を感じる場、②自己と他者との「相互承認」によって生まれる場、③場の要素が相互浸透的につながる場、④自己の位置（役割）や生きがいを獲得する場、⑤身を守るためにシェルター的な安心の場を要素とするものである』としている。

*1-1) 杉本希映・庄司一子 「居場所」の心理的機能の構造とその発達的変化, 2006

*1-2) 橋 まちの居場所 一日本建築学会一, 2010

1-4.本研究の位置づけ

筆者所属研究室においては、対象地域の研究として、地域ストックに関する塙野の「地域住民や新規流入者の居場所づくりによる地域ストックの再価値化に関する研究」(2012)、藤田の「社会的条件不利地域におけるパブリックスペースの多層利用に関する研究」(2014)、大宮の「地域施設の複層的利用にみる社会生活圈形成に関する研究」(2016)、木村「西成区釜ヶ崎地域における土地利用と用途変容に関する研究」(2017)がある。また生活保護受給者に関する児玉の「生活保護の受給に伴う生活変化と居場所に関する研究」(2015)、柳本の「密集市街地の住宅ストックにおける生活保護世帯の居住実態に関する研究」があり、まちづくりに関しては山内の「課題集積地域における異主体間の協働に関する実践的研究」が挙げられる。

対象地の既往論文としては複数あるが、本研究は地域のこどもに焦点を当て、こどもの居場所についての現状把握をし、コミュニティづくりにおけるこどもたちの位置づけの知見を得るものとする。

1-5.調査の概要

調査方法は以下の通りである。

1. こどもたちの居場所、まちについての意識の把握を目的とする対象地域内の小学校「いまみや小中一貫校」のこども・保護者・教員にアンケート調査を行う。
2. 地域の児童館・学習施設・保育園などこどもたちの居場所となる施設のスタッフにヒアリングを行い、こども・保護者・地域との関係に関するヒアリング調査を行う。

1-6.用語の定義

本論文では用語を以下のように定義する。

居場所

本研究では、居場所づくりの知見を得るにあたり、より調査対象者の主観に基づいて考察を行うため、居場所について以下のように定義し、調査を行う。

- ①場を持っている
- ②本人にとって、「居て楽しい所」「(一緒にいる人が) 大切だと思う場所」「なくなつてほしくない場所」だと感じる場

子どもの貧困

子どもの貧困には二種類ある。

- ①絶対的貧困…必要最低限の生活水準が満たされていない状態。
食べ物や着る服を用意するのも困っている状態。
- ②相対的貧困…国民の可処分所得が中間値の半分を満たない状態。
国、地域、時代によって変化するもの
経済的な理由で高校や塾に行くことができない状態。

本研究では、主に②の貧困のことを示す。

資料③

17

二章：地域概要

資料③

二章：地域概要

2-1. 地域概要

釜ヶ崎の範囲は明確には定められていないが、大阪府大阪市西成区の北端部に位置する、JR 西日本関西本線・大阪環状線より南、南海本線・高野線の新今宮駅よりも東の地域として概ね扱われる。当地域の呼称は一定ではなく、労働者は主に「釜ヶ崎」、「カマ」と呼ぶことが多い。メディアにおいては「あいりん地区」と呼ばれ、一般の人にとって「西成」が釜ヶ崎のことを指し示すこともある。

既往研究では報道における名称として「あいりん地区」の範囲を大阪府大阪市西成区花園北1丁目、萩之茶屋1・2・3丁目、太子1・2丁目、天下茶屋北一丁目、山王1・2丁目とし、とくに簡易宿所が密集する萩之茶屋1・2・3丁目、太子1・2丁目を「釜ヶ崎」地域として定義している。

本研究で扱う「あいりん地区」は大阪市立更生相談所の平成20年版事業統計集に付けられた事業概要に掲げられている、山王1丁目・2丁目・3丁目（一部）萩之茶屋1丁目・2丁目・3丁目（一部）花園北1丁目（一部）・2丁目（一部）天下茶屋北1丁目（一部）太子1丁目・2丁目の範囲とする。また、「釜ヶ崎」とは萩之茶屋1・2・3丁目と、一部太子1・2丁目の西端、堺筋沿線の範囲とする。

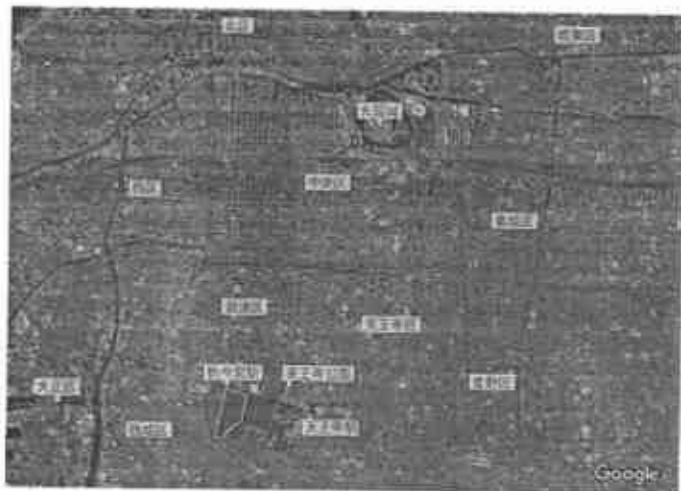


写真 2-1. 大阪市との位置関係



写真 2-2. 釜ヶ崎の航空写真
青塗があいりん地域、
白枠が釜ヶ崎

2-2. 対象地域の歴史

1960年代前半、現在のように単身世帯が人口の多くを占めるのではなく、所帯を持つ労働者が半分以上を占め、単身世帯は約4割であった。男女比は半々であり、子どもや女性も数多く生活していたという。1960年代後半には単身男性日雇い労働者人口が一気に万人を突破し、南海ガード西側の寄せ場をはじめとした釜ヶ崎のまちは活気に満ちていた。

現在の釜ヶ崎、「単身日雇い労働者のまち」が形成されたのは、1970年の万博景気前後からである。そのころから、全国から単身日雇い労働者が流入してくるようになり、逆に家族連れの労働者や女性、子どもは地域外の市営住宅へと移り住んでいった。

簡易宿泊所は4階～5階建のビルに建て替えられた。より多くの労働者を宿泊させるため、3層一間であった居室を1層一間に仕切るなどといった改修が行なわれた。このころより、釜ヶ崎は単身男性日雇い労働者のまちとして形作られていった。

釜ヶ崎のまちのシンボルである、あいりん総合センターは1970年10月にオープンした。センター内に西成労働福祉センター、社会医療センターとともに設立された公職あいりん職業安定所では「アブレ手当」の支給がスタートする。

1970年代後半は第一次オイルショックの影響で人々はアブレ地獄に陥るが、1980年代のバブル景気時代には歴史的な求人ラッシュにより釜ヶ崎の景気も盛り返すこととなる。その追い風を受け、約200件の簡易宿泊所は高層のビジネスホテル風の建築物として建て替えられる。一方、1960～80年代の20年間の間に発生した暴動は23回にも及ぶ。

1990年には高齢化が急速に進行するもの、具体的な対策が取られず、炊き出しには1回に1000人前後が並んでいた。2000年代に入るとNPO、支援ボランティア団体、まちづくり団体などによるホームレス支援の多様な活動が活発になった。例としては高齢者特別清掃事業や、簡宿転用型高齢者共同アパート（サポートタイプハウス、福祉アパート）などがあげられる。

2000年代半ばから、外国人バックパッカータウンが急速に形成されている。また、2008年9月のリーマンショックによる年越し派遣村をきっかけに、新規流入の派遣切り型若年労働者を含めた現役日雇い労働者層が数千人規模で生活保護になだれ込むこととなった。

現在の課題としては、単身高齢男性世帯が多い、女性・子どもが極端にない、路上生活者（野宿生活者）が多い、生活保護受給者が多い、結核の罹患率が高いなどが挙げられる。



写真 2-3. 1960 年代寄せ場写真

※定点観測 篠ヶ崎 一定点撮影が明らかにするまちの変貌,葉文館出版,1999

現在の寄せ場（あいりん総合センター 1階）の南海電鉄高架を挟んで逆側に青空市場があった。



写真 2-4. 1990 年代寄せ場写真

※定点観測 篠ヶ崎 一定点撮影が明らかにするまちの変貌,葉文館出版,1999

あいりん総合センターに寄せ場が移る。毎朝センター内・周辺には多くのバス、車が求人にやってきていた。



写真 2-5. 2018 年寄せ場写真

2-3. 昨今のまちの動き

釜ヶ崎の最近のまちの動きとして、2000 年前後からのまちづくり活動の変遷を山内(2012)※2-6) の研究より追うこととする。

2000 年以前、かつては行政による暴動対策としてまちづくりが行なわれ、支援団体・労働運動団体は行政に対抗、連合振興町会は自治組織の行政窓口としての役割を担うという、三者三様の行動を取っていた。

1999 年には自由な討論とアクション重視のために立場関係なく個人として参加する街づくりネットワークの場として「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」を形成し、毎月 1 回(現在は不定期)で「まちづくりひろば」という開催時期にまちでホットな話題を議論する、自由な意見交換の場が開催されている

2008 年からは「(仮称)萩之茶屋拡大会議」が立ち上がり、現在に至るまでに徐々に釜ヶ崎の各主体の連携が形成されてきた。これにより今までにない立場を越えた枠組みを形成し、地域の総意としての活動、行政との連携が可能になった。

2010 年代より、橋下市長時代の到来とともに西成区のまちづくりは大きく変化し、2012 年には「西成特区構想プロジェクト」が動き出した。特区構想エリアマネジメント協議会を設立。協議会の地域資源、観光振興、環境・福祉、子ども・子育て部会には釜ヶ崎で活動する各主体が参加し、行政との連携体制が本格的に始まった。

2014 年 9 月からあいりん総合センター耐震問題に関し釜ヶ崎で活動する 32 の団体が同時に集まり、あいりん総合センターや今後のまちづくりについて話し合うあいりん地域のまちづくり検討会議が一般公開形式で行われた。

2018 年、現在は検討会議の意見を踏まえた会議である「あいりん地域まちづくり会議」が行なわれている。釜ヶ崎の重要な拠点である「あいりん総合センター」が仮移転・本移転となっていく中でまちのビジョンに合ったどのような要素を取り入れ、残すのかが地域の今後のまちづくりを考える上で重要なポイントとなっている。

※2-6) 山内良太郎 講題集積地域における異主体間の協同に関する実践的研究
—釜ヶ崎におけるまちづくり協議体を事例として—

2-4. あいりん地区とこどもたち

(1) こどもたちの歴史

1962年 大阪市立あいりん小中学校 開校

1984年 大阪市立新今宮小中学校（1973年上記から改名） 廃校

あいりん小・中学校は昭和37年2月1日愛隣地区の不就学生対策として特別に設立された学校である。あいりん地区に住んでいる学令期のこどもで、社会的、経済的その他種々の事情のため、不就学になっているものを就学させ、その個性と能力に応じて、生活指導や学力の補充に努め、小学校・中学校の普通教育の目標に達成させるよう努めることが趣旨である。

天王寺補導センターが、1960年1月～6月まで、浪速区の馬淵附近、西成区の東萩・東西入船、(現在の萩ノ茶屋二丁目、三丁目)、東田(現在の太子)附近の街頭補導で発見した不就学児(含む長欠児、未就学児)は累計100人にものぼる。少年非行対策としての実態調査であって、こどもたちの教育権の保障のためになかったことは、この調査が教育委員会の手ではなく、警察の手で行われたことが物語っている(「少年補導」1960年10月号)。

1961年8月1日から一週間続いた暴動後200人の不就学児が発見されたと言われている。不就学児が再生産されていった背後には、教育行政の不在があり、戸籍・住民登録のはっきりしない子どもたちは当時、就学を拒否されていた。戸籍、住民登録の問題は子ども自身には責任はないが、むしろ子どもの教育権を保障する側にこそ責任があった。

さらに釜ヶ崎のこどもたちが登校したとき、「臭い」「きたない」といった学校内で起きた差別によりせっかく登校したこどもたちも再度、不就学へ追いやられてしまうというこどもが過ごす環境としては良いとはいえない状態が続き、あいりん総合センターオープンで単身男性労働者が増えたり、野宿生活者による世間へのマイナスイメージにより次第に子育て層や子どもの数も減少した。

(2) いまみや小中一貫校

本研究では、前述にあるあいりん地区とこどもたちの歴史的背景がある中で、まちづくり会議等で何度も取り上げられているまちづくりビジョン「こどもの声が聞こえるまち」を目指すにあたり、まちづくりの起爆剤になるようにと平成27年度に開校されたのがいまみや小中一貫校（大阪市立新今宮小学校・今宮中学校）である。

対象地域内にある唯一の小中学校である、いまみや小中一貫校は既存の3小学校（大阪市立弘治小学校、大阪市立萩之茶屋小学校、大阪市立今宮小学校）の統合と中学校内への新小学校併設で、小中一貫校として出発した。これは「いまみや小中一貫校」は、「やたなか小中一貫校」（東住吉区、2012年4月開校）、「小中一貫校むくのき学園」（東淀川区、今年4月開校）に続く、大阪市内で3番目の施設一体型小中一貫校となる。

いまみや小中一貫校の特色は、9年間を見据えた長期的視点での学習指導で、小学校1年生からの生きた英語学習やタブレット型端末を利用し、まち歩きや地域学習を行う。また、学校教育として、「交流」「挑戦」「体験」を重視しており、「交流」の一環として、西成区内に拠点を置く大阪フィルハーモニー交響楽団との交流を深め、近隣の「塩崎おとき紙芝居博物館」から講師を招き、紙芝居などの伝統芸能を教えてもらうなど、地域との交流を通じて、西成区の良さや大阪の魅力を学んでいる。

表2-6. いまみや小中一貫校 概要

| | |
|-------|-------------------|
| 正式名称 | 大阪市立新今宮小学校・今宮中学校 |
| 併合学校 | 大阪市立弘治小学校 |
| | 大阪市立萩之茶屋小学校 |
| | 大阪市立今宮小学校 |
| | 大阪市立新今宮中学校 |
| 所在地 | 大阪市西成区花園北1丁目8番32号 |
| 設立年月日 | 2015年 |
| 全校生徒数 | 462人 |

表2-7. いまみや小中一貫校 全校生徒数

| 学年 | 1組 | 2組 | 合計 |
|----|----|----|-----|
| 1年 | 21 | 21 | 42 |
| 2年 | 27 | 26 | 53 |
| 3年 | 24 | 25 | 49 |
| 4年 | 32 | | 32 |
| 5年 | 25 | 26 | 51 |
| 6年 | 19 | 19 | 38 |
| 7年 | 33 | 31 | 64 |
| 8年 | 38 | 37 | 75 |
| 9年 | 29 | 29 | 58 |
| | | | 462 |

今宮中学校区における小中一貫した教育として以下の教育が期待されている。

〈なにわっ子の育成〉

1. 地域の学校として「めざす子ども像」を共有し、学年に応じた取組みをすすめ、地域に主体的にかかわる子どもを育成。

〈確かな学力の育成と進路指導〉

1. 基礎的・基本的学习の徹底や、放課後学習・補充学習の充実、教科担任制の導入(中期)による発展的学習などにより、9年間を通して小中学校の教職員が協働し、進路につながる確かな学力の向上を図る。
2. 思考力、判断力、表現力などの基盤となる言語活動を、9年間徹底して、各教科等の学習過程に位置づけ、子どもの言語活動を充実。
3. 早くから外国語活動を取り入れ、「英語を学ぶ」教育から「英語を使う」教育に義務教育9年間で展開することで、国際社会で活躍できる人材を育成。

〈豊かな心とたくましいからだの育成〉

4. すべての教職員が9年間を通して一人一人の子どもたちに関わることで、安心して学校生活を送れるよう、指導面、支援面を充実。
5. 中学生による本の読み聞かせや共同清掃などの異学年交流や縦割り活動により、学校内で豊かな人間関係を構築するとともに、自尊感情を育む。また、より大きな集団の中で自主性や協調性、社会性を育む。
6. 学校で学ぶ知識と実際の世の中との架け橋になる（地域から学ぶ）授業を通じて、目標を持って社会を生き抜く力、情報を選び自分の答えを導く力を育む。
7. 5・6年生から中学校の部活動に参加することで、スポーツや文化活動に親しみ、専門性を高める。

〈登下校の安全の確保〉

1. 子どもたちが安心して学校に通えるよう、登下校の安全を確保する。



写真 2-8. いまみや小中一貫校

(3) いまみや小中一貫校 地域学習

いまみや小中一貫校では教科横断型学習（総合的な学習・外国語活動）として、地域学習年間指導計画を立て、各学年ごとに異なった内容の学習を行なっている。

前述の〈確かな学力の育成と進路指導〉の6で述べられているように、学校で学ぶ知識と実際の世の中との架け橋になる（地域から学ぶ）授業を通じて、目標を持って社会を生き抜く力、情報を選び自分の答えを導く力などを育むためにさまざまなプログラムが用意されている。

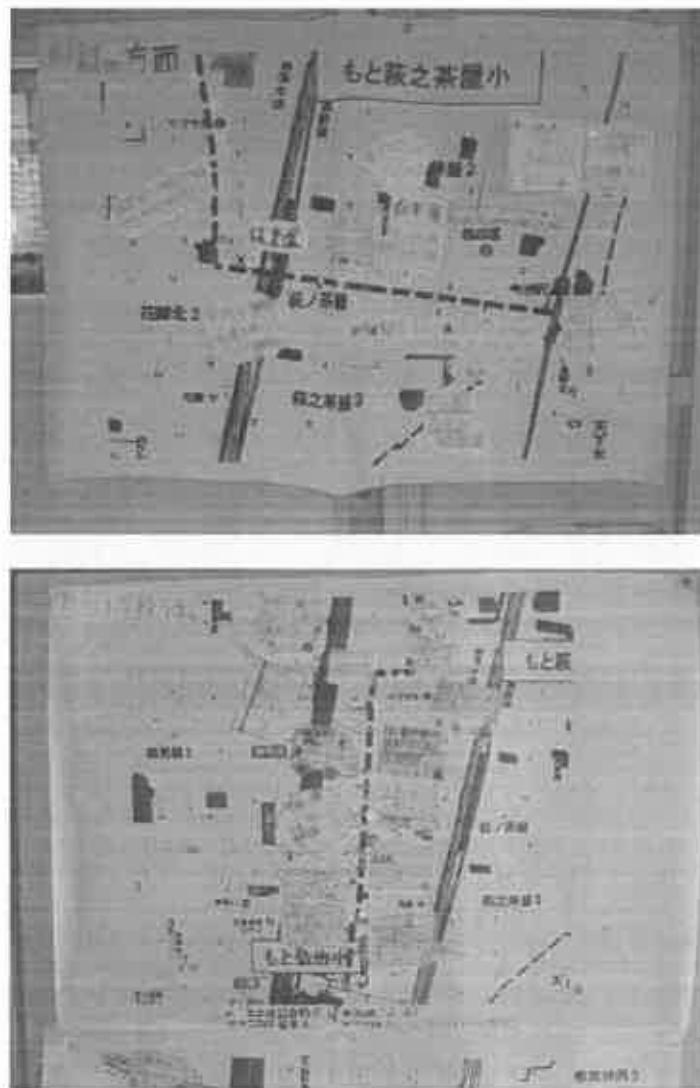


写真 2-9. いまみや小中一貫校 地域学習（安全まちあるきマップ）

三章：こどもからみたコミュニティ形成 に関する意識について

資料③

三章：こどもからみたコミュニティ形成に関する意識について

3-1. 「まちづくりアンケート」調査概要と目的

今回、あいりん地区のこどもの生活実態と『居場所』の現状を把握するために、二種類のアンケートを行なった。

一つは、こどもを対象に「現在の生活について」「地域の公園について」「町のイメージについて」「自分の居場所について」、生活やまちに関する「まちづくりアンケート」を行なった。

調査を行うにあたって、いまみや小中一貫校に協力をお願いし、こども 387 人（全校生徒 462 人のうち、1～3 年生 129 人、4～9 年生 258 人）の回答を得た。1～3 年生にはアンケート用紙を配布するのではなく、アンケートの質問内容を教員が読み上げ、児童の挙手の数を数えた。4～9 年生はアンケート用紙を配布した。各学年の回答の中身がより濃いものにするために、アンケート実施マニュアルを作成し、教員の呼びかけの下、アンケートを実施した。また、質問事項の作成に関しては、学校との協議を重ねて児童に負担がかからないよう調査内容や調査方法に配慮をし、アンケートを行った。

もう一つは、上記のこどもたちの保護者 148 名、一貫校の先生方 18 名に「こどもたちの放課後の居場所や遊び場」「一貫校の満足度」「まちの魅力やアピールできるエピソード」等、生活やまちに関する「まちづくりビジョン策定のためのアンケート」を行なった。

本調査の目的は、対象地域におけるこどもの生活実態と『居場所』の現状を把握することで、まちづくり活動におけるこどもと地域の関係性を具体的なこどもの『居場所』づくりの方法について実践的に調査することと位置付ける。

表 3-1 調査概要

| | 対象者 | 形式 | 人数 | 内容 |
|----------------------------|------------------------------------|--|-----|---------------------------------|
| 1 いまみや 小中 一貫 校 | 児童(1～3年) | クラスにて ヒアリングアンケート (質問を読み上げ、挙手の数を集計する) アンケート・ 一部ヒアリングによる | 129 | まち、学校、自分について |
| 2 | 児童(4～9年) | | 258 | まち、学校、自分について |
| 3 | 保護者 | | 148 | こどもの居場所、 まちづくりビジョンについて |
| 4 | 教員 | | 18 | こどもの居場所、 まちづくりビジョンについて |
| 5 | 今池こどもの家・山王こどもセンター こどもの里・わかくさ保育園 | | 4 | 地域のこどもたち、 施設の役割について エピソード |

3-2. こどもからみた地域の居場所とコミュニティ

(1) アンケート対象者：1・2・3年生（129人）

①放課後の過ごし方

放課後と一緒に過ごす人として、約60%を占める児童が放課後は「おうちの人」、「いきいきの先生」、「子どもの里・今池子どもの家・山王子どもセンターの大人や先生」と答えたが、「ひとりで過ごす」という児童も5%いる。

どんなことをしているかという質問に対しては、「おにごっこ」、「ボール遊び」、「公園の遊具」などアウトドアの遊びよりも「勉強や宿題」、「テレビを見る」などインドアの遊びのほうが多い結果となった。これは、地域にこどもたちが気軽に遊ぶことのできる児童遊園がない（正確には遊べる状態ではない）ことが大きな原因だと考えられる。こどもたちは未就学児時代から近所の公園で遊ぶのではなく、少し遠くにある大きな公園や地域の施設の広場を利用するなど公園が身近でないことがわかった。

表 3-2 放課後一緒に過ごすことが多い人

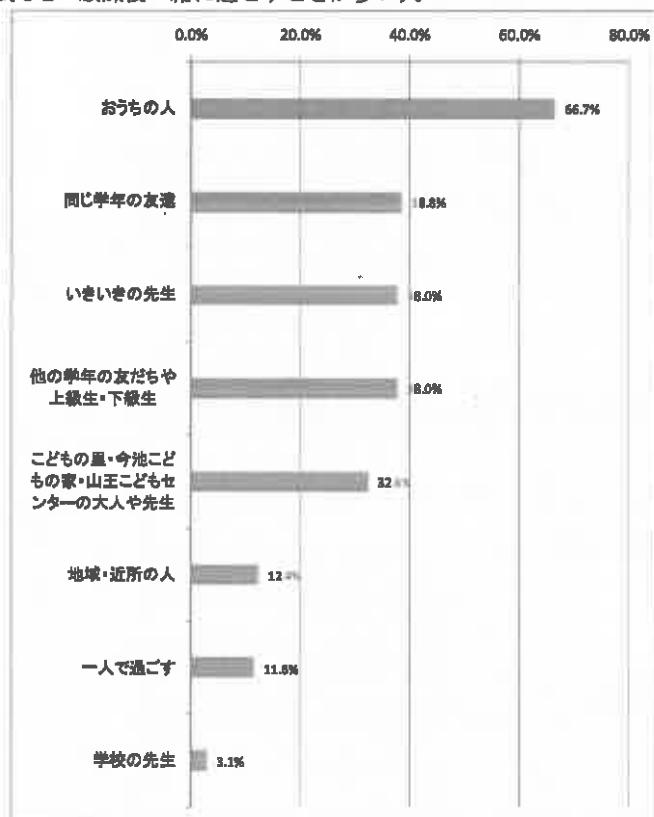
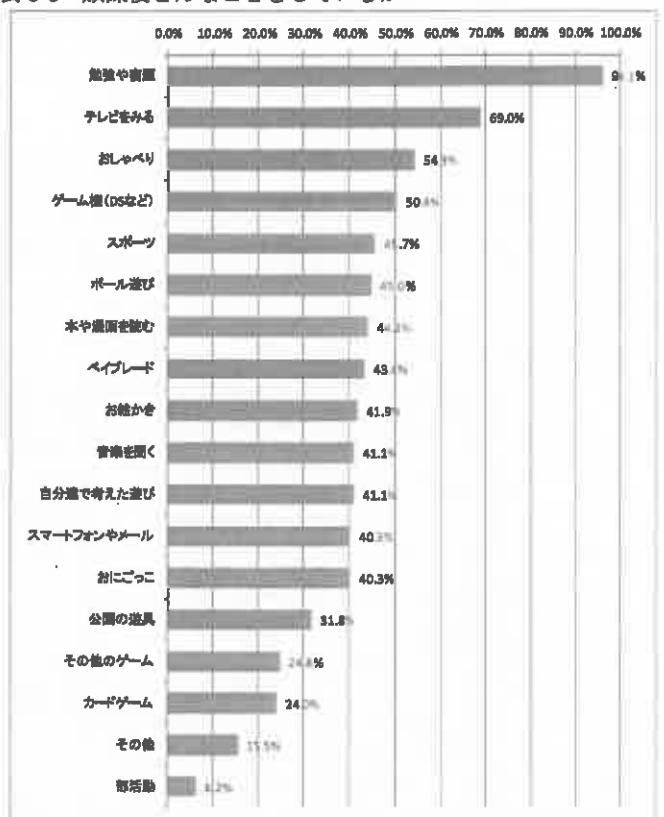


表 3-3 放課後どんなことをしているか



②まちの公園、緑、「萩の森」について

「もっと自由に遊びたい」、「いろんな人が使えるようにしてほしい」、「ゆっくりできるところがほしい」という項目から現在満足に児童遊園を利用できていない状態が分かる。アンケート集計中の声としても近くの公園を把握していない児童が多く見受けられた。

小中一貫校の立地から考えて、学校周辺には駅や大通りがすぐ近くにある。さらに、対象地域内は街中の緑や住宅の緑の溢れだしがとても少ない。そこから「花や植物など緑を増やしてほしい」という意見も多く見られた。

先日、まちづくり会議の公園検討部会が設置され、そこで今後の公園の使い方について支援者により話し合われている。現在、実際に学校周辺の公園を利用したことがあるかと1年生の1クラスに訪ねてみると19名中7人が利用したことがあると回答した。このような現状も公園検討部会で把握し、今後の対策を考えていくべきである。

旧萩之茶屋小学校の一角に「萩の森」という林がある。そこはこの地域唯一の緑がある場所でいまみや小中一貫校の児童は地域学習の一貫で「萩の森」で遊び、自然の大切さを学んでいる。児童に今後どのようなまちにしていきたいか、まちに対して思っていることを挙手制で訪ねたところ、『「萩の森」のような自然がたくさんある遊び場が増えほしい。もっと学校（いまみや小中一貫校）の近くにほしい。』といった意見があがった。アンケートでも「小学校跡地に萩の森を残してほしい」や「別の場所でよいので残してほしい」という意見が過半数を占めた。

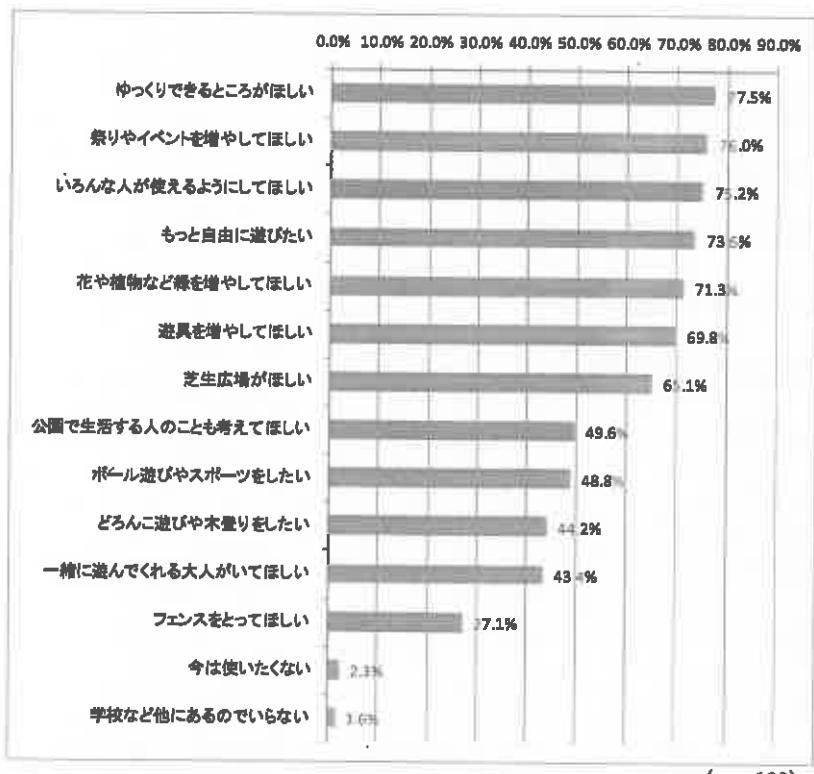


図 3-4 一貫校周辺の公園について

(n=129)

表 3-5 萩の森について

| 小学校跡地に残してほしい | 別の場所でよいので残してほしい | 同じような場所があればよい | どちらでもよい | なくなってもかまわない | 未回答（萩の森を知らない等） |
|--------------|-----------------|---------------|---------|-------------|----------------|
| | | | | | |
| 41.9% | 18.6% | 0.8% | 0.0% | 0.0% | 38.8% |

(n=129)

③まちのイメージ、これからどのようにになってほしいか

このまちのイメージとしては「たのしい」、「あかるい」、「やさしい」など子どもたち（1-3年生）自身はこのまちのイメージをプラスに感じていることがわかった。アンケート集計時のつぶやき拾いで言っていたのは『にぎわってる』、『ホームレスが多い』、『おじさんが多い』、『子どもが少ない』、『道をおっちゃんが教えてくれる』、『たばこのゴミが多い』などと、こどもたちそれがまちのイメージ・印象があることがわかった。

表 3-6 まちの将来イメージについて

(n=129)

| ① お もし ろい | ② たの しい | ③ きれ い | ④ か わ い い | ⑤ や さ し い | ⑥ あ か る い | ⑦ め ず ら し い | ⑧ つ ま ら な い | ⑨ く さ い | ⑩ きた な い | ⑪ こ わ い | ⑫ き び し い | ⑬ く ら い | 児童 数 |
|--------------------|---------------|--------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|------------------|-------------------|------------------|-----------------------|------------------|---------|
| 73 | 97 | 45 | 8 | 83 | 86 | 15 | 12 | 60 | 55 | 53 | 19 | 15 | 129 |
| 56.6% | 75.2% | 34.9% | 6.2% | 64.3% | 66.7% | 11.6% | 9.3% | 46.5% | 42.6% | 41.1% | 14.7% | 11.6% | 100.0% |

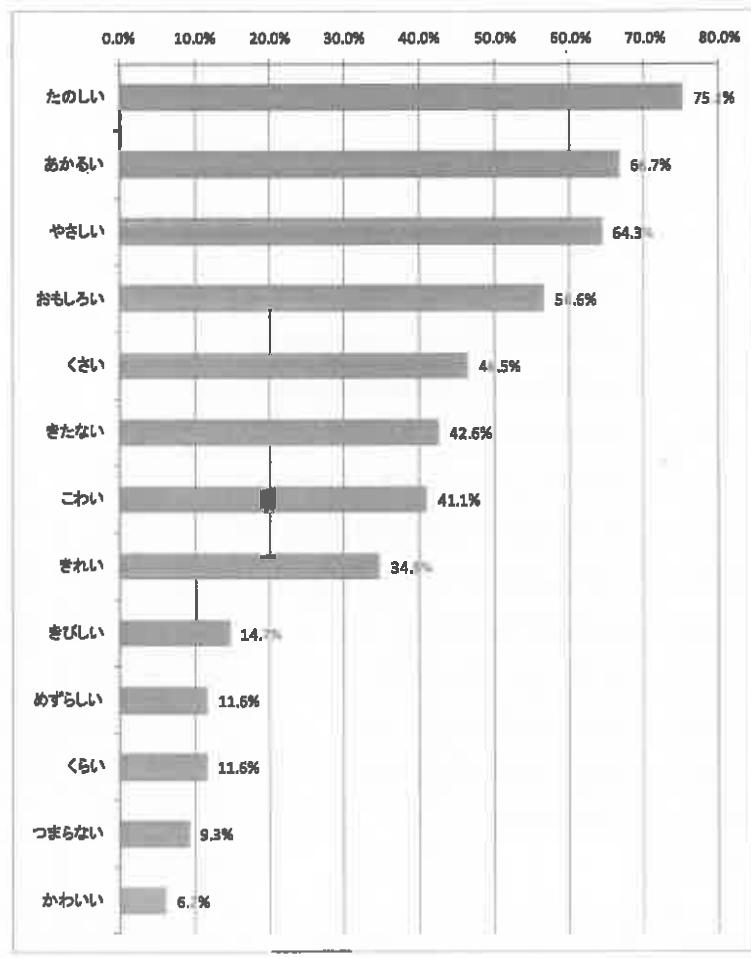


図 3-7 まちのイメージについて

(n=129)

さらには地域学習でまちの安全や地震について学習しているので、今後なってほしいまちとして「犯罪のない安心安全なまち」、「地震に強いまち」が上位に上がり、「きれいで明るいまち」、「遊べる公園や広場がたくさんいるまち」、「こどもがたくさんいる元気いっぱいのまち」、「地域で協力し合うまち」も約8割の児童が選択した。

表3-8 まちの将来イメージについて

| | (n=129) | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|---------|-----------|-------------------|---------------------|------------|---------------|------------------|------------|--------------|--------------------|------------------|----------|-----------|--------|
| 犯罪のない安心安全なまち | 地震に強いまち | きれいで明るいまち | 遊べる公園や広場がたくさんあるまち | こどもがたくさんいる元気いっぱいのまち | 地域で協力し合うまち | 自転車の路上駐車がないまち | おしゃれなカフェやお店があるまち | 観光客でにぎわうまち | 学生や若者でにぎわうまち | おっちゃんたちが大切にされているまち | 旅行客は泊まる宿泊施設があるまち | 外国人が来るまち | ビルが立ち並ぶまち | 見直数 |
| 122 | 116 | 111 | 108 | 106 | 104 | 91 | 90 | 79 | 76 | 67 | 66 | 61 | 50 | 129 |
| 94.6% | 89.9% | 86.0% | 83.7% | 82.2% | 80.6% | 70.5% | 69.8% | 61.2% | 58.9% | 51.9% | 51.2% | 47.3% | 38.8% | 100.0% |

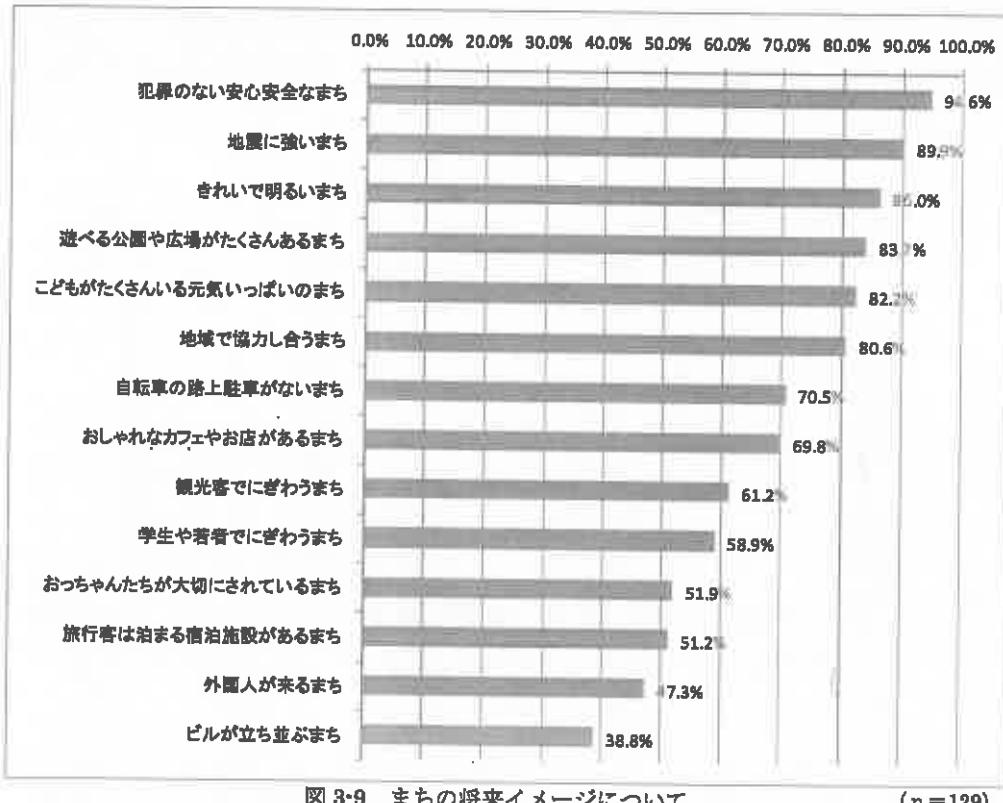


図3-9 まちの将来イメージについて

(n=129)

(2) アンケート対象者：4・5・6・7・8・9年生（258人）

①放課後の過ごし方

4-9年生では、中学年（4-6年生）、高学年（7-9年生）と校区内外で分類する。

放課後の過ごし方については、校区内外関係なく「自分の家」、「学校」、「習い事や塾」が上位3つ入った。校区内から通っている児童は校区外から通っている児童より「習い事や塾」で放課後を過ごすことは少ないが、家から学校が近いために学校そのままに居たり、いきいき活動に参加する児童もいる。

校区外から通っている児童の7~9年生は放課後100%自宅で過ごしている。また、「学校」、「習い事や塾」も8割を超える。

表3-10 放課後どこにいるか

| | 児童数 | ①学校 | ②いきいき活動 | ③公園 | ④西成ブレイバーグ | ⑤子育てブランチ | ⑥こどもの里 | ⑦今地こどもの家 | ⑧山王こどもセンター | ⑨こども食堂 | ⑩ゲームセンター | ⑪キーワードモール | ⑫スーパー・コンビニ | ⑬自分の家 | ⑭友達の家 | ⑮親戚の家 | ⑯おじちゃんお姉ちゃんの家 | ⑰習い事や塾 | ⑱駅前周辺 | ⑲この町では迷んでいない |
|---------|-------|------|---------|------|-----------|----------|--------|----------|------------|--------|----------|-----------|------------|--------|-------|-------|---------------|--------|-------|--------------|
| 校区内4-6年 | 88 | 32 | 2 | 4 | 1 | 7 | 3 | 7 | 1 | 2 | 5 | 5 | 12 | 82 | 20 | 3 | 2 | 28 | 7 | 3 |
| 100.0% | 40.0% | 1.3% | 5.0% | 1.1% | 1.8% | 3.8% | 3.5% | 1.0% | 2.3% | 4.3% | 6.0% | 16.2% | 22.0% | 1.0% | 0.0% | 30.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | |
| 校区内7-9年 | 93 | 45 | 0 | 3 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 83 | 4 | 3 | 2 | 28 | 0 | 1 |
| 100.0% | 48.4% | 0.0% | 3.2% | 0.0% | 4.3% | 0.0% | 2.2% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 4.3% | 2.2% | 51.0% | 8.5% | 0.0% | 2.1% | 26.9% | 0.0% | 1.1% | |
| 校区内合計 | 181 | 77 | 2 | 7 | 1 | 8 | 3 | 9 | 1 | 2 | 5 | 9 | 14 | 100 | 26 | 4 | 5 | 56 | 7 | 4 |
| 100.0% | 44.8% | 0.0% | 4.0% | 0.0% | 2.8% | 1.1% | 5.2% | 0.0% | 1.0% | 2.8% | 5.2% | 8.1% | 66.2% | 100.0% | 2.0% | 1.6% | 39.5% | 0.0% | 0.0% | |
| 校区外4-6年 | 28 | 8 | 0 | 3 | 1 | 0 | 1 | 4 | 1 | 1 | 3 | 2 | 3 | 78 | 3 | 1 | 3 | 13 | 0 | 1 |
| 100.0% | 28.6% | 0.0% | 10.7% | 3.6% | 0.0% | 3.6% | 14.3% | 2.8% | 3.6% | 10.7% | 7.1% | 10.7% | 66.2% | 100.0% | 3.6% | 10.7% | 48.4% | 0.0% | 2.8% | |
| 校区外7-9年 | 22 | 25 | 12 | 0 | 0 | 11 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 28 | 2 | 1 | 4 | 24 | 1 | 1 |
| 100.0% | 44.2% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.9% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 1.9% | 5.6% | 55.0% | 3.8% | 1.0% | 7.7% | 48.2% | 0.0% | 0.0% |
| 校区外合計 | 50 | 33 | 12 | 1 | 1 | 0 | 1 | 5 | 1 | 1 | 3 | 3 | 4 | 100 | 8 | 2 | 3 | 37 | 1 | 1 |
| 100.0% | 40.0% | 3.8% | 1.3% | 0.0% | 1.3% | 0.0% | 1.3% | 6.0% | 1.3% | 2.0% | 3.8% | 7.6% | 17.5% | 37.0% | 1.6% | 0.0% | 46.2% | 1.3% | 0.0% | |
| 未入力 | 5 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| 合計 | 258 | 115 | 6 | 28 | 2 | 18 | 4 | 14 | 11 | 4 | 8 | 11 | 21 | 100 | 32 | 6 | 14 | 89 | 7 | 3 |
| 100.0% | 41.4% | 2.3% | 3.7% | 5.4% | 1.3% | 6.9% | 5.4% | 5.4% | 1.6% | 2.1% | 6.2% | 9.1% | 15.3% | 2.9% | 5.4% | 14.5% | 34.5% | 6.4% | 1.3% | |

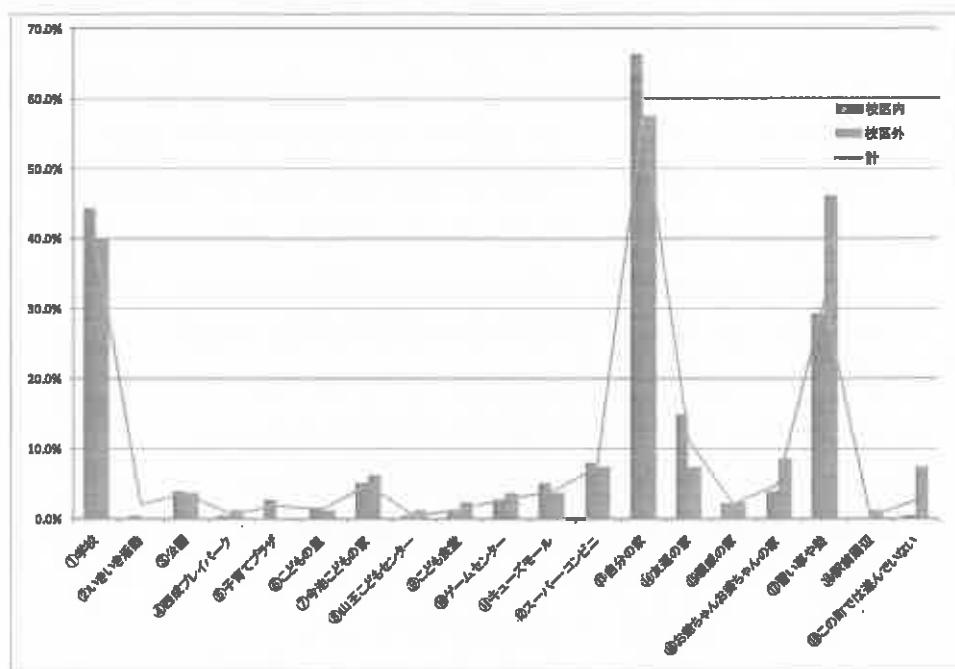


図3-11 放課後どこにいるか（校区内外比較）

(n=258)

②休日の過ごし方

休日の過ごし方については、「自分の家」に続き、「キューズモール」があがる。校区内外限らず、学校近隣にあるキューズモールに親しみを感じているように思われる。いまみや小中一貫校は5年生から部活動に参加できるため、休日も学校に行く人も約7%いる。その他は「習い事や塾」、「友達の家」が上位にあがる。

校区外の4~6年生は「キューズモール」と同じ割合で「お爺ちゃんお婆ちゃんの家」が2番目に票数が多かった。中にはやはり部活動により休日でも練習や試合を学校で行なっている場合もある。

「自分の家」はどの年代、どの地域でも児童たちの一番の居場所となる。一番落ち着けるやほっとできるなど、地域同士、ひと同士安心安定の関係性が重要である。

表3-12 休日どこにいるか

| | 見直数 | ①学校 | ②いきいき活動 | ③公園 | ④自習成プレイヤー | ⑤子育てフレーバー | ⑥こどもの里 | ⑦今治こどもの家 | ⑧山王こどもの家 | ⑨こども食堂 | ⑩ゲームセンター | ⑪キューズモール | ⑫スーパー・コマド | ⑬自分の家 | ⑭友達の家 | ⑮親戚の家 | ⑯お爺ちゃんお婆ちゃんの家 | ⑰習い事や塾 | ⑱駅前周辺 | ⑲この町では遊んでいない | ⑳その他の | |
|---------|--------|-------|---------|-------|-----------|-----------|--------|----------|----------|--------|----------|----------|-----------|--------|-------|-------|---------------|--------|-------|--------------|--------|------|
| 校区内4~6年 | 80 | 4 | 4 | 4 | 1 | 2 | 1 | 4 | 1 | 3 | 2 | 17 | 18 | 50 | 38 | 5 | 1 | 39 | 1 | 3 | 0 | |
| 校区内4~6年 | 100.0% | 5.0% | 5.0% | 5.0% | 1.2% | 0.0% | 2.5% | 5.0% | 1.2% | 3.8% | 2.5% | 22.5% | 22.5% | 62.5% | 47.5% | 6.25% | 1.25% | 47.5% | 0.0% | 12.5% | 11.25% | |
| 校区内7~9年 | 93 | 18 | 6 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 31 | 8 | 56 | 20 | 4 | 1 | 38 | 1 | 3 | 4 | |
| 校区内7~9年 | 100.0% | 19.1% | 6.4% | 6.4% | 1.1% | 0.0% | 1.1% | 6.4% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 33.3% | 8.3% | 58.3% | 21.1% | 4.2% | 1.1% | 38.9% | 1.1% | 3.3% | 4.3% | |
| 校区内合計 | 113 | 26 | 14 | 5 | 2 | 2 | 2 | 5 | 1 | 1 | 2 | 44 | 24 | 114 | 44 | 9 | 11 | 50 | 1 | 11 | 11 | |
| 校区内合計 | 100.0% | 11.5% | 12.2% | 12.2% | 17.5% | 0.0% | 17.5% | 12.2% | 8.7% | 8.7% | 8.7% | 38.5% | 21.4% | 53.5% | 37.7% | 8.1% | 12.5% | 4.6% | 2.6% | 11.5% | 11.5% | |
| 校区外4~6年 | 28 | 0 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 1 | 5 | 6 | 1 | 18 | 6 | 1 | 0 | 8 | 0 | 1 | 5 | |
| 校区外4~6年 | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 7.1% | 3.6% | 0.0% | 0.0% | 14.3% | 3.6% | 3.6% | 21.4% | 21.4% | 35.7% | 3.6% | 35.7% | 3.6% | 0.0% | 0.0% | 21.4% | 3.6% | 3.6% | 7.1% |
| 校区外7~9年 | 32 | 18 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 30 | 2 | 31 | 6 | 2 | 3 | 12 | 2 | 3 | 2 | |
| 校区外7~9年 | 100.0% | 75.0% | 6.25% | 6.25% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 93.8% | 6.25% | 31.3% | 18.8% | 6.25% | 6.25% | 53.1% | 12.5% | 53.1% | 6.25% | |
| 校区外合計 | 60 | 23 | 12 | 4 | 1 | 0 | 0 | 5 | 1 | 1 | 5 | 36 | 1 | 43 | 12 | 3 | 15 | 13 | 6 | 3 | 5 | |
| 校区外合計 | 100.0% | 38.3% | 33.3% | 33.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 100.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 93.8% | 2.3% | 100.0% | 2.3% | 0.0% | 0.0% | 33.3% | 23.1% | 23.1% | 33.3% | |
| 未入力 | 5 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| 合計 | 218 | 43 | 26 | 12 | 5 | 2 | 2 | 10 | 2 | 2 | 28 | 27 | 12 | 100 | 38 | 27 | 71 | 8 | 19 | 18 | 18 | |
| 合計 | 100.0% | 19.6% | 12.0% | 12.0% | 2.3% | 0.0% | 0.0% | 46.3% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 55.1% | 23.0% | 47.4% | 47.4% | 0.0% | 0.0% | 18.8% | 2.3% | 18.8% | 18.8% | |

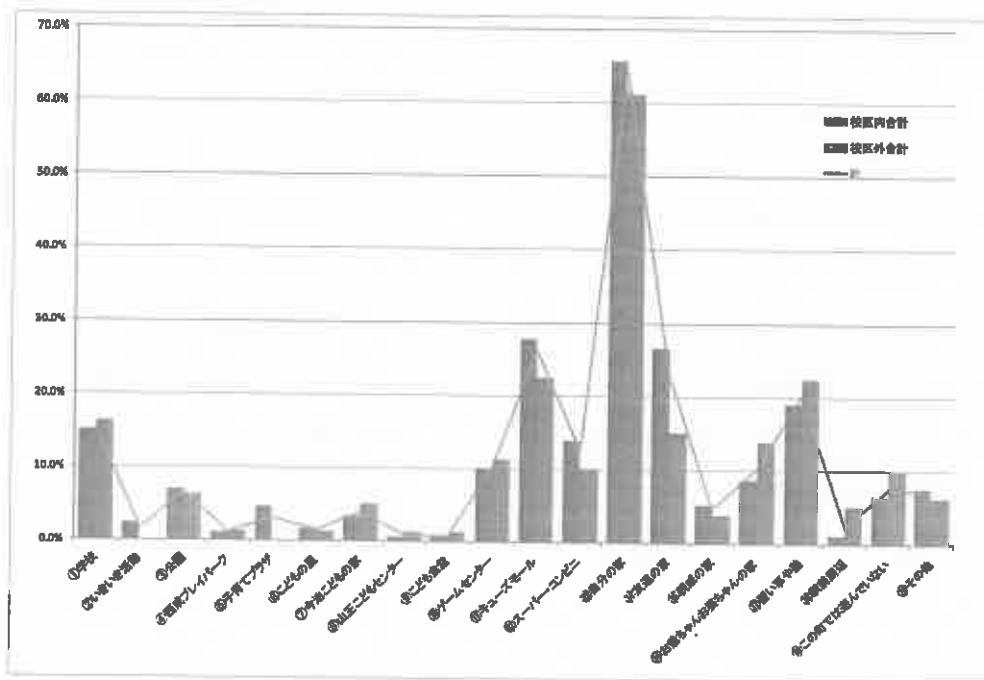


図3-13 休日どこにいるか (校区内外比較)

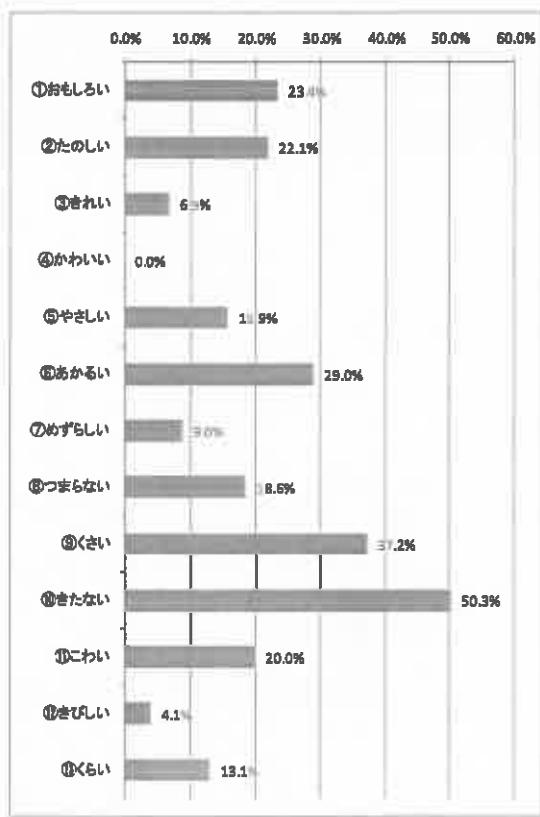
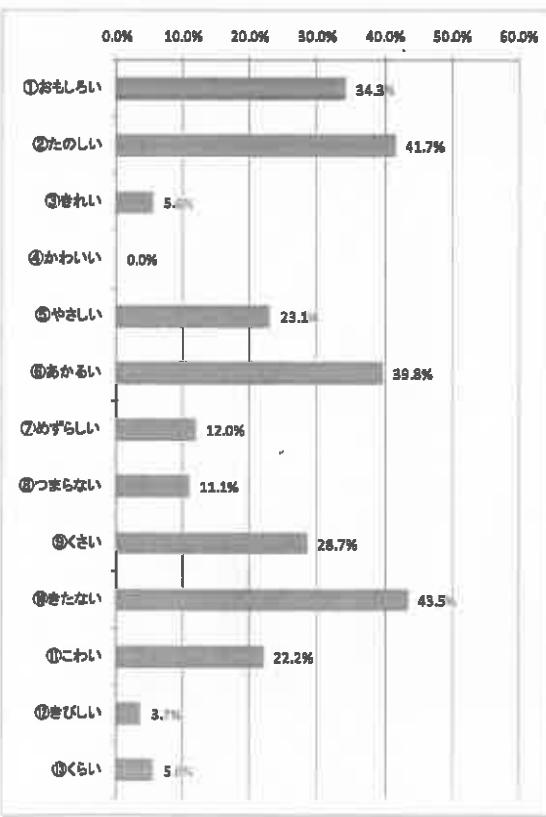
(n = 258)

③まちのイメージ

まちのイメージとしては、地域内外に問わず「きたない」が最上位に上がった。しかし、「くさい」というマイナスなワードに対して、「おもしろい」「たのしい」というプラスなワードが票数に大差なくあがっている。学校の地域学習の中で、このまちのおもしろみや魅力を発信しようという取り組みが行われていることがこの結果に繋がったと考えられる。

表 3-14 まちのイメージ

| | 児童数 | ①おもしろい | ②たのしい | ③きれい | ④かわいい | ⑤やさしい | ⑥あかるい | ⑦めずらしい | ⑧つまらない | ⑨くさい | ⑩きたない | ⑪こわい | ⑫きびしい | ⑬くらい | |
|------|-----|--------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|------|-------|
| 4-6年 | 108 | 37 | 45 | 6 | 0 | 25 | 43 | 13 | 12 | 31 | 47 | 24 | 4 | 6 | |
| | | 100.0% | 34.3% | 41.7% | 5.6% | 0.0% | 23.1% | 39.8% | 12.0% | 11.1% | 28.7% | 43.5% | 22.2% | 3.7% | 5.6% |
| 7-9年 | 145 | 34 | 32 | 10 | 0 | 23 | 42 | 13 | 27 | 54 | 73 | 29 | 6 | 19 | |
| | | 100.0% | 23.4% | 22.1% | 6.9% | 0.0% | 15.9% | 29.0% | 9.0% | 18.6% | 37.2% | 50.3% | 20.0% | 4.1% | 13.1% |



④好きな・大切な居場所

好きな居場所として、「自分の家」、「学校」、「お爺ちゃんお婆ちゃんの家」が約4割弱を占める。とくに「自分の家は」4~6年生は約9割、7~9年生も約8割、大半の児童がじたくは自分の居場所だと感じている。しかし、全体でいうと、258名中27名は自宅が自分の居場所だとは感じていない。

また、その27名の中で今後大切にしたい居場所の気持ちをみると、全体平均の上にあがっている「ア：気持ちがホッとする」「ウ：楽しい、嬉しい安心できるところ」に続き、「キ：無理せずにいられるところ」の3つを主に大切にしたいと思っている特徴が出た。

無理せずにいられるところと言うのは、精神的安定が得られる場所・空間である。ここには対人関係も含まれてくるので、このように家以外の場所で精神的安定が得られるよう、地域のこども支援施設はまちに開かれている。(4章)

表3-17 好きな・大切な居場所

(n=258)

| | 見 宣 数 | ① 学 校 | ② い き い き 活 動 | ③ 公 園 | ④ 習 い 事 や 藝 | ⑤ 部 活 動 | ⑥ 自 分 の 家 | ⑦ 友 達 の 家 | ⑧ 親 戚 の 家 | ⑨ お 爺 ち ゃ ん お 婆 ち ゃ ん の 家 | ⑩ 西 成 ブ レ イ バ ー ク | ⑪ こ ど も の 里 | ⑫ 今 池 こ ど も の 家 | ⑬ 山 王 こ ど も セ ン タ ー | ⑭ こ ど も 食 堂 | ⑮ ゲ ー ム セ ン タ ー | ⑯ ス ー パ ー ・ コ ン ビ ニ | ⑰ そ の 他 | ⑱ そ う な 場 所 は な い |
|---------|-------------|-------------|---------------------------------|-------------|----------------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|---|---|----------------------------|--------------------------------------|--|----------------------------|--------------------------------------|--|------------------|---|
| 校区内4~6年 | 80 | 58 | 9 | 23 | 31 | 26 | 76 | 44 | 31 | 45 | 3 | 6 | 3 | 2 | 5 | 31 | 32 | 1 | 0 |
| | 100.0% | 73.8% | 11.3% | 28.8% | 41.3% | 32.5% | 95.0% | 55.0% | 38.8% | 56.3% | 3.8% | 7.0% | 11.3% | 2.5% | 6.3% | 38.8% | 40.0% | 1.3% | 0.0% |
| 校区内7~9年 | 93 | 44 | 0 | 10 | 25 | 37 | 80 | 23 | 17 | 29 | 2 | 2 | 5 | 0 | 0 | 10 | 28 | 5 | 0 |
| | 100.0% | 47.3% | 0.0% | 10.8% | 26.9% | 39.8% | 86.0% | 24.7% | 18.3% | 31.3% | 2.2% | 2.2% | 5.4% | 0.0% | 0.0% | 10.8% | 39.1% | 5.4% | 0.0% |
| 校区内合計 | 173 | 100 | 9 | 33 | 58 | 63 | 156 | 67 | 48 | 74 | 5 | 8 | 14 | 2 | 5 | 41 | 60 | 6 | 0 |
| | 100.0% | 59.5% | 5.2% | 18.1% | 33.5% | 36.4% | 90.2% | 38.7% | 27.7% | 47.6% | 2.9% | 4.7% | 8.1% | 1.2% | 3.5% | 23.7% | 34.7% | 3.5% | 0.0% |
| 校区外4~6年 | 28 | 17 | 1 | 0 | 7 | 5 | 27 | 10 | 6 | 16 | 1 | 1 | 6 | 1 | 1 | 10 | 12 | 1 | 0 |
| | 100.0% | 60.7% | 3.6% | 22.1% | 25.0% | 17.8% | 96.4% | 35.2% | 21.4% | 67.1% | 2.6% | 2.6% | 22.4% | 3.6% | 3.6% | 35.7% | 42.8% | 3.6% | 0.0% |
| 校区外7~9年 | 52 | 20 | 1 | 4 | 15 | 21 | 44 | 10 | 8 | 17 | 0 | 1 | 8 | 0 | 0 | 8 | 13 | 5 | 0 |
| | 100.0% | 38.5% | 1.9% | 7.7% | 26.0% | 40.4% | 84.6% | 19.2% | 15.4% | 32.7% | 0.0% | 5.8% | 3.8% | 0.0% | 0.0% | 15.4% | 25.0% | 9.6% | 0.0% |
| 校区外合計 | 80 | 37 | 2 | 13 | 28 | 26 | 71 | 25 | 14 | 33 | 1 | 4 | 8 | 1 | 1 | 18 | 25 | 6 | 0 |
| | 100.0% | 46.3% | 2.5% | 18.3% | 27.5% | 32.5% | 88.0% | 25.0% | 17.5% | 41.3% | 1.3% | 5.0% | 10.0% | 1.3% | 1.3% | 22.5% | 31.3% | 7.5% | 0.0% |
| 未回答 | 5 | 3 | 0 | 2 | 2 | 0 | 4 | 1 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| 合計 | 258 | 143 | 11 | 48 | 82 | 88 | 31 | 86 | 64 | 109 | 8 | 12 | 22 | 3 | 6 | 60 | 7 | 12 | 0 |

表3-18 上図で自分の家を選ばなかった27名の今後大切にしたい居場所でのきもち

(n=27)

| 回答者数 | ア 気 持 ち が ホ ッ と す る | イ 新 し い こ と を 体 験 で き る こ と | ウ 楽 しい 、 嬉 し い 、 安 心 で き る こ と | エ 自 分 が 「 で き る 」 と 思 え る こ と | オ 自 分 が 好 き な こ と が で き る | カ な に も せ ず ボ ー つ と で き る こ と | キ 無 理 せ ず に い ら れ る こ と | ク 欲 し い の が 手 に 入 る こ と | ケ 一 緒 に い る 人 が 仲 間 だ と 思 う こ と | コ 誰 に も 邪 魔 さ れ な い こ と | サ 自 分 を 理 解 し て く れ る 人 が い る こ と | シ 自 分 の 役 割 や 責 任 が あ る こ と | ス 自 分 の 事 に つ い て 考 え ら れ る こ と | セ そ の 他 | 未 回 答 | |
|------|--|--|--|---|---|---|--|--|--|--|---|--|--|------------------|-------------|-------|
| | 27 | 5 | 1 | 5 | 1 | 1 | 3 | 5 | 3 | 1 | 3 | 3 | 1 | 0 | 2 | 1 |
| | 100.0% | 18.5% | 3.7% | 18.5% | 3.7% | 3.7% | 11.1% | 18.5% | 11.1% | 3.7% | 11.1% | 3.7% | 0.0% | 7.4% | 3.7% | 63.0% |

資料3

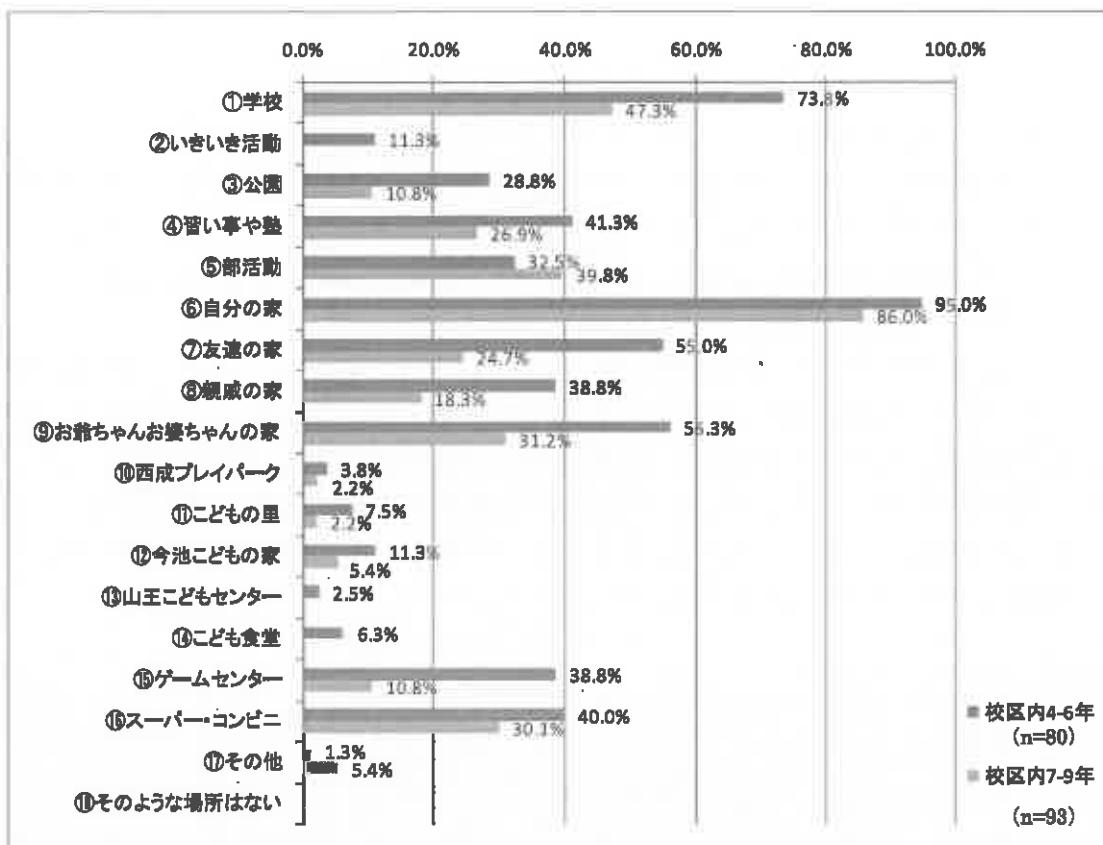


図 3-19 好きな・大切な居場所（校区内 4-6・7-9 年）

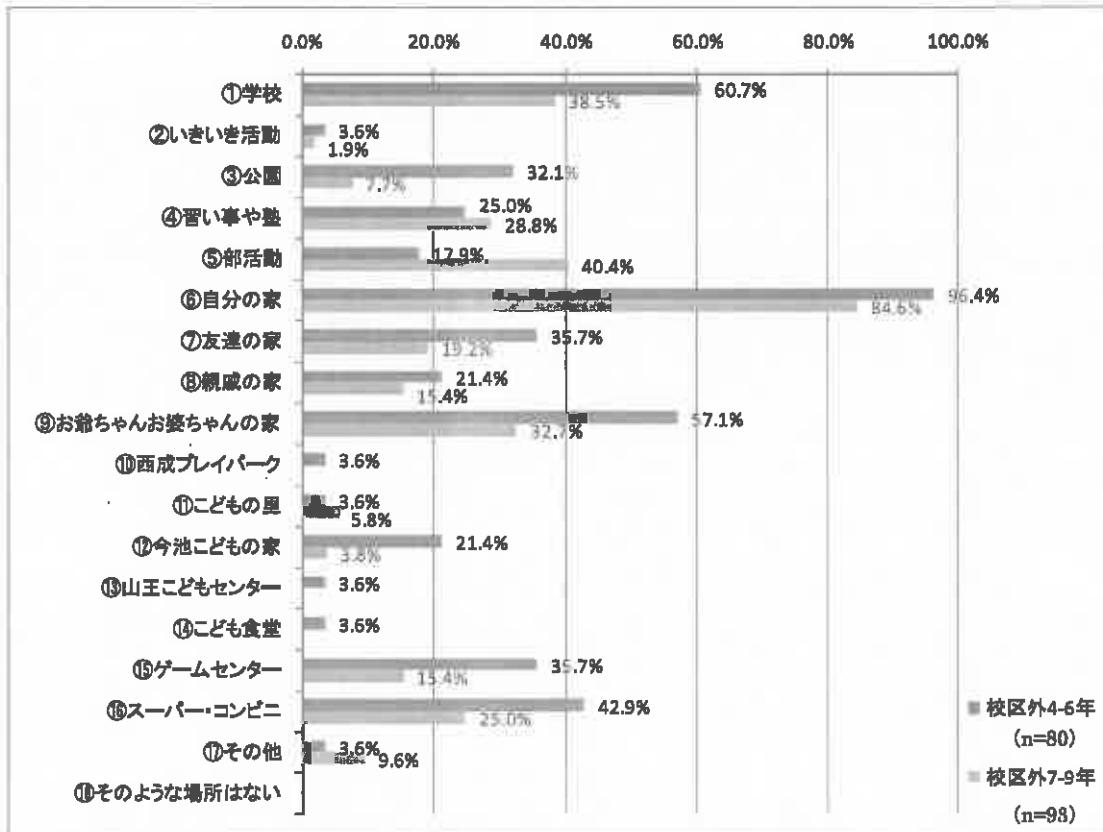


図 3-20 好きな・大切な居場所（校区外 4-6・7-9 年）

3-3.保護者からみた地域の居場所とコミュニティ

(1) こどもたちの居場所や遊び場、一貫校周辺の公園について

子どもの居場所や遊び場について、どれぐらいありますか？という問い合わせに対して、校区内外関係なく「かなりある」、「少しはある」が41%で、「あまりない」、「ほとんどない」が52.7%となった。

また、一貫校周辺の公園に関しては「知らない・わからない」と答えた方が校区内外問わず3割未満いる。実際ヒアリングとアンケートを取った保護者に聞いてみても、公園がどこに何があるかわからないという意見があった。

校区内保護者は「利用したいができない」、「もっと利用したい」と公園を利用したいという意見が多くあるが、校区外保護者は「あえて利用する必要はない」、「どちらでもよい」が2割えを超える、さらに「もっと利用したい」が最も低い結果となった。

これは、学校が自宅近隣ではないことから、小中一貫校周辺の公園に関する興味・関心が薄いことを示す。

表 3-21 こどもたちの居場所・遊び場について（保護者）

| | 回答者数 | ①かなりある | ②少しはある | ③あまりない | ④ほとんどない | ⑤わからない | 未回答 |
|-----|------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|
| 校区内 | 97 | 5 5.2% | 36 37.1% | 30 30.9% | 22 22.7% | 2 2.1% | 2 2.1% |
| 校区外 | 42 | 4 9.5% | 13 31.0% | 12 28.6% | 9 21.4% | 3 7.1% | 1 2.4% |
| 未回答 | 9 | 0 | 3 | 2 | 3 | 0 | 1 |
| 合計 | 148 | 9 100.0% | 52 35.1% | 44 29.7% | 34 23.0% | 5 3.4% | 4 2.7% |

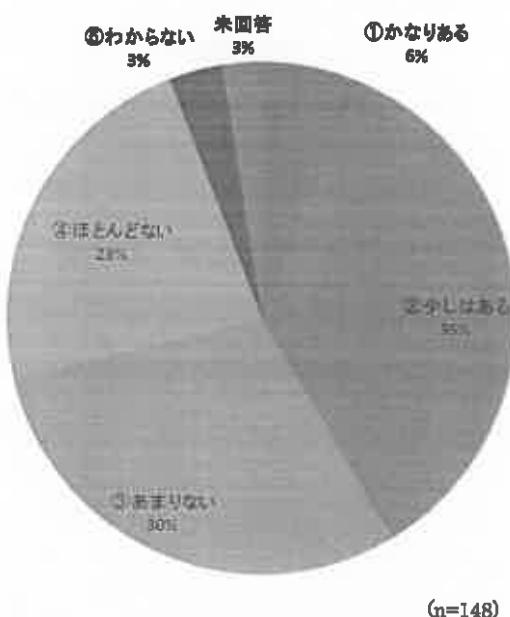


図 3-22 こどもたちの居場所・遊び場について（保護者）

表 3-23 一貫校周辺の公園について（地域内 4-6-7-9 年）

| | 回答者数 | ①十分利用しているのでこのままでよい | ②もっと利用したい | ③利用したいができない | ④あえて利用する必要はない | ⑤どちらでもよい | ⑥知らない・わからない | ⑦その他 | 未回答 |
|-----|------|--------------------|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 校区内 | 97 | 11 11.3% | 15 15.5% | 22 22.7% | 12 12.4% | 14 14.4% | 23 23.7% | 19 19.6% | 8 8.2% |
| 校区外 | 42 | 7 16.7% | 3 7.1% | 6 14.3% | 11 26.2% | 10 23.8% | 12 28.6% | 8 19.0% | 0 0.0% |
| 未回答 | 9 | 1 | 1 | 1 | 5 | 1 | 2 | 2 | 0 |
| 合計 | 148 | 19 100.0% | 19 12.8% | 29 19.8% | 28 18.9% | 25 16.9% | 37 25.0% | 29 19.6% | 8 5.4% |

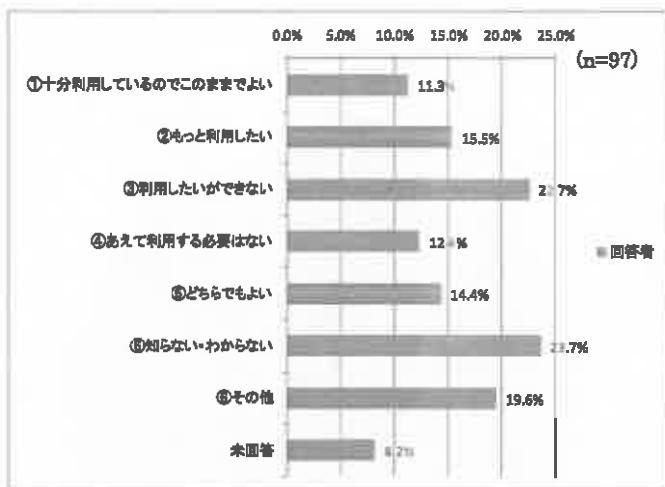


図 3-24 一貫校周辺の公園について（校区内保護者）

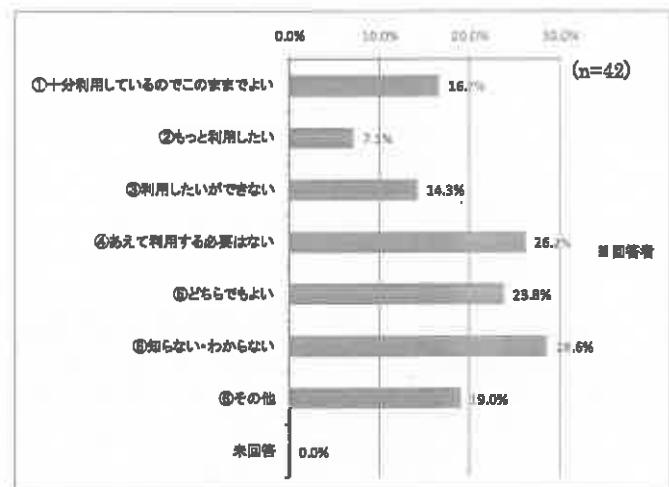


図 3-25 一貫校周辺の公園について（校区外保護者）

(2) 一貫校周辺の公園を利用しない理由

保護者が一貫校周辺の公園を利用しない理由としては上位3つは治安が22.4%、公園の事情によるものが19.4%、公園までの距離が問題の場合が16.4%である。

治安の次に何らかの公園の事情で使えない事が利用しない理由に挙げられ、中でも多かったのは、「公園に鍵がかかっているから利用できない」という声である。一貫校周辺の公園は路上生活者が拠点を作らないように高いフェンスが設けられていたり、鍵がかかっていたりする。現に、一貫校のすぐ南にある花園公園は鍵がかかっていて、地域学習で利用する際はわざわざ管理者にあけてもらっている。

本来、自由児童遊園であるはずの公園を他者に譲り合う心を持つこと無く利用したり、こどもたちがせっかくある公園を、使って遊べないような状態を早急に脱却する必要がある。また「子どもの声がきこえるまち」を進めていくためには、子育て層には必須条件の一つでもある、公園・緑の溢れ出し等のハード面を整えることも必要である。

表 3-26 一貫校周辺の公園を利用しない理由(保護者)

| | 回答数 | 割合 |
|---------|-----|--------|
| 治安 | 15 | 22.4% |
| 公園の事情 | 13 | 19.4% |
| 距離 | 11 | 16.4% |
| 公園で遊ばない | 9 | 13.4% |
| 衛生問題 | 8 | 11.9% |
| 知らない | 8 | 11.9% |
| その他 | 3 | 4.5% |
| 合計 | 67 | 100.0% |

(n=67)

表 3-27 一貫校周辺の公園を利用しない理由(保護者)

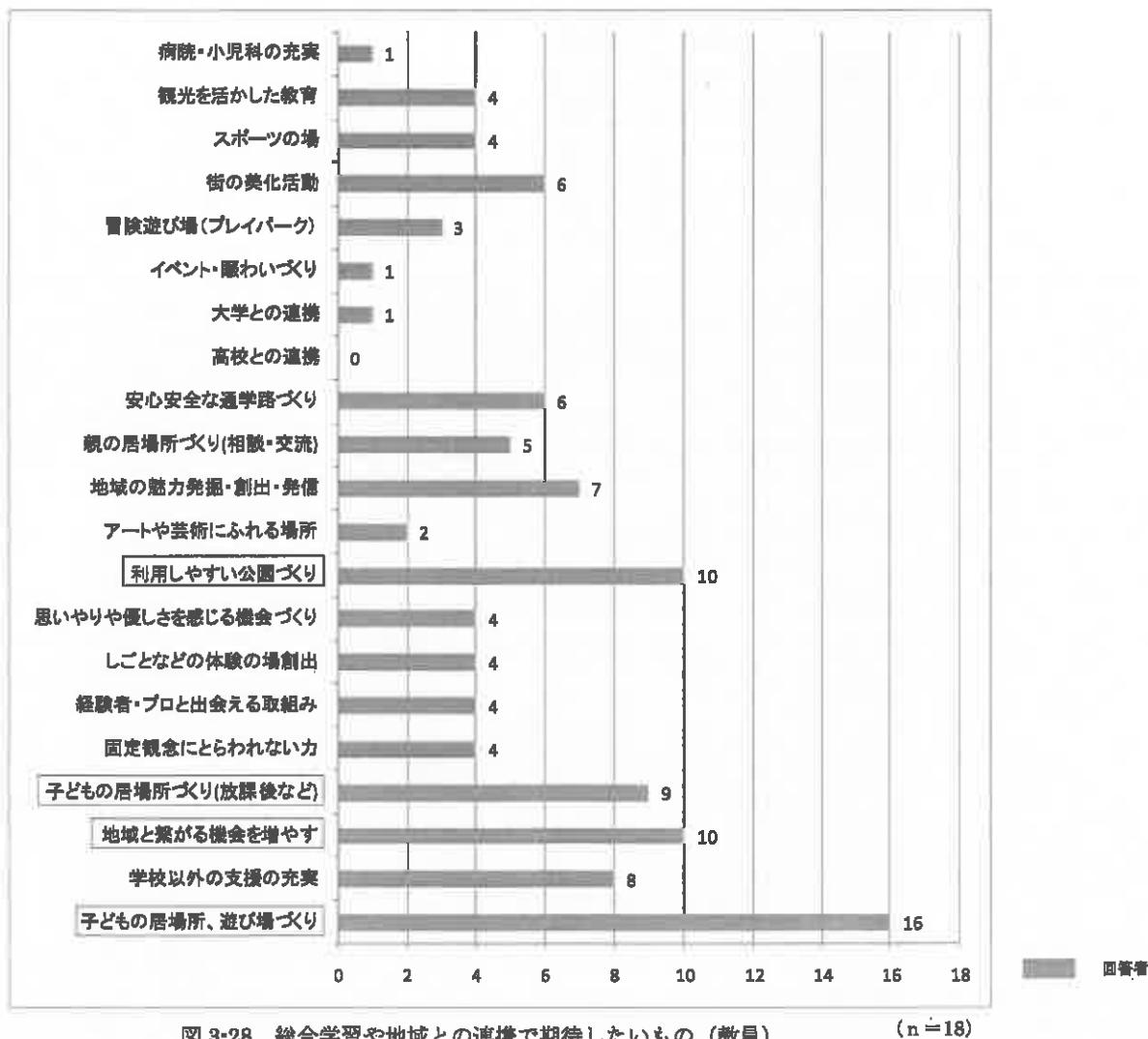
| | |
|---------|--|
| 治安 | 改善はされているものの治安が悪く子どもが安心して遊べる雰囲気ないと感じる 変な人がいるので、あまり遊ばせられないでの、遊ばせても安心な環境を作ってほしい。 路上生活者が多い |
| | 公園に見たことない大人(男)が寝ていたりする 町の環境今の状況からして公園で遊ぶことができない |
| | 公園の周辺の治安が良くなさそうなので、公園だけ整備してもどうしようもないと思います。 |
| | まわりの環境がよくない |
| 公園事情 | 小学生が遊べるような遊具が少ない 学校の隣の公園は鍵がかかっている |
| | 公園が少ない。ボールで遊べるような場所が少ない せまい |
| | 子どもがあまり遊んでいないので、自分の子どもをつれてていきにくい 公園が少なすぎる |
| | 家から遠い |
| 距離 | 自宅から遠いのであえて利用する必要はない 家と学校が離れていて電車通学のため、地域のことや公園がどこかよくわからない |
| | 自宅近くに公園があるから |
| | 西成区住ではないから |
| | 晝い事で公園で遊ぶことはない あまり公園で遊ばないから。 |
| 公園で遊ばない | すでに中学校なので、公園で遊ぶことがない |
| | きれいに整備されていれば問題ないが、大人や学生などは集まりたがらない。きたない。不潔。不安感。 |
| | ・においが気になる ・どんよりしている ・予約制のスポーツ公園が欲しい ・老人が集まっていて入りづらい |
| | 衛生問題 |

3-4. 教員からみた地域の居場所とコミュニティ

(1) 総合学習や地域との連携で期待したいもの

総合学習や地域との連携で期待したいものとして、「子どもの居場所、遊び場づくり」「地域と繋がる機会を増やす」「利用しやすい公園づくり」、「子ども居場所づくり」が上位にあがった。ここから、教員は地域に根強い居場所づくりを求めている。

中でも「子どもの居場所、遊び場づくり」、「利用しやすい公園づくり」が上位2つに入るが、地域学習で学校近隣の普段は鍵がかかっている公園に遊びに行くプログラムもあったことから子どもの遊びの重要性を感じた教員が多い。



(2) まち・こどもについての意見

まちの魅了やアピールポイントでは、「人情味があふれる」「大阪・西成らしさ」というキーワードがあがった。誰でも何でも受け入れてくれるまちとして「懐の広さ」もあげられる。多様な福祉のネットワークにより『このまちなら生きていける』という強みや受け皿を持ったまち地域である。

あいりん地区の課題やまちづくりについて、教育的に繋がるテーマや可能性については「自分の住んでいる地域を知る」ことが重要だとあげられていた。実際地域の歴史や現在への繋がりを学ぶことで地域愛が芽生え、その地域愛が他のところでも使えるようにする。

表3-29 まち・こどもについての意見（教員）

| 街の魅力・アピールポイント | あいりん地区の課題やまちづくりについて、教育的につながるテーマや可能性 | 萩之茶屋地域に住む世帯とそれ以外の地域にお住まいのこどもや親との関係について 背景、現状、今後の展開 |
|--|---|--|
| 交通の便が良い | 自分の住んでいる地域のことを知る というの内容の中に 現在の状態を考えるということが 含まれていると思う。 | 萩之茶屋だけではなく 三校地域のネットワークがあれば よいのではないでしょうか。 |
| 交通の便の良さ、 難波や天王寺へのアクセス、 人情味あふれる街の人達 | おっちゃんの存在 こわい、くさいと思われているけど 本当は「がんばっている！」「なか なか抜け出せなくて困っている人」 ということ。 実は学校も建てたりできる 土木のプロもいると伝えられている。 | こどもと関わる時間を 積極的に取れない家もあります。 親もいっぱいいる 精神的に辛いところもある。 |
| 誰でも受け入れ、居場所を与えてくれる 懐の広さ でも一般受けするのは下町グルメと 外国人インバウンド | 今年度学校をあげて 1~9年生の地域学習プログラムの 作成を研究しながらすすめている。 系統的・段階的に街のことを 正しく学ぶ機会を学校で設定し、 ここで学ぶこどもたちの地域肯定感を 育む事が学校の課題であると考える。 | 子育ての方法・愛情のかけ方、 学校の教師や地域の他の人たちとの 関係づくりなど正しいロールモデルを 知らないまま大人になっている。 親と子の間にあって共に 育っていくような役割を 担う人が必要である。 |
| JR・南海・地下鉄・路面電車、交通のア クセスが良く、外國からの観光客もたくさん 来られています。大阪らしさを感じ られる街です。 | 路上生活者の声をしっかり聞き、「おはな」のよう な生活の場が決まっていくと、人とのつなが りも出来てくるのでは…。地域の清掃活動への 補助金を増やし、経済面でも前向きな人を応 援できるようにしてもらいたい。 | もちつき、こども食堂など、地域ごとの活動は 多いが、学校で開催される行事は少ない。親 子プールなどPTAで取り組めるものが考えて いただけるような気運ができたら…。 |

3-5. 小括

児童は学校内外で、放課後どこにいるのかに少し違いが表れた。校区内の児童は学校でそのまま居残り遊びをしたりするが、校区外の児童は高学年（7・9年生）は放課後の居場所を自宅と選んだ人が100%だったことから、自宅や習い事・塾で放課後を過ごすことが多い。しかし、校区内外で放課後の行動に大きな違いはない。

また、児童のまちのイメージは低学年は「おもしろい」「たのしい」「やさしい」「あかるい」などプラスなイメージが強いが、中・高学年になると「くさい」「きたない」などのマイナスイメージが上位にあがっている。

保護者は、一貫校周辺の公園に関してこどもを一貫校に校区内から通わせている保護者と校区外から通わせている保護者とでは、一貫校周辺の公園に関する興味・関心に差があった。

さらに、教員は総合学習や地域との連携で期待したいものとして、地域に根強い居場所づくりを求めていて、各学年のごとの地域学習プログラムが始まったことから、教員たちの地域学習に関する意識も上がっている。

四章：地域のこどもたちの居場所 —地域施設スタッフによる個別意見

資料③

四章：地域のこどもたちの居場所

—地域施設スタッフによる個別意見

4-1. 地域のこどもたちの居場所 概要

本章では、あいりん地区内のこどもたちの居場所となる各施設のスタッフの方にこの地域のこどもたちの居場所について、こどもたちの特徴、地域内の公園（四角公園（萩之茶屋中公園）、三角公園（萩之茶屋南公園）、仏現寺公園、）の今後の利用方法について、また、各施設の特徴、今後のことどもたちの居場所についてなどヒアリングを行なった。また、こどもたちがどのようなストーリーの中で、どのような居場所の在り方として、各施設を利用しているのかというエピソードを尋ねた。

調査の概要を以下に記す。

調査1. 今池こどもの家 ヒアリング

対象：スタッフ 1名 日程：1月上旬

調査2. 山王こどもセンター ヒアリング

対象：スタッフ 1名 日程：1月中旬

調査3. こどもの里 ヒアリング

対象：スタッフ 1名 日程：1月中旬

調査4. わかくさ保育園 ヒアリング

対象：スタッフ 1名 日程：12月下旬

内容：あいりん地区のことどもたちの歴史・現状、施設の活動内容、地域のことどもの居場所について、まちにとってのことどもたちの存在について

4-2. 対象者のまち・交流機会に関する意見

本節で言述する内容は以下の通りである。

1. 今池こどもの家
2. 山王こどもセンター
3. こどもの里
4. わかくさ保育園



図 4-1 対象地域内のかども支援施設 地図

本研究では、ヒアリング内容のまとめにマインドマップ^{※7)}方法を用い、キーワードやテーマを図式化する。

※7) マインドマップ…マインドマッピングとも言う。

トニー・ブザンが提唱した自分の考えを絵で整理する表現方法である。

1.今池こどもの家

今池こどもの家は大阪市が行なっているあいりん児童健全育成事業である。こどもたちの安全な遊び場や生活の場、居場所として活動している。地域のこどもたちが仲間たちと楽しいあそびやスポーツをしている。

災害孤児を集めることの施設を岡山で始めたのがきっかけで、大阪でも事業を始め100年になる。地域の中のこどもたちの生活水準をあげることも目的の一つである。40年ほど前、大阪万博が開かれる関係でまちに労働者が増加し、結果的にこどもの遊び場が減る。それがきっかけでこどもが安全安心に遊べる施設、今池こどもの家が誕生した。現在、少子化問題の中で府でも子供の事業が廃止されてきている。

表 4-2.今池こどもの家 概要

| | |
|---------|--|
| 所在地 | 大阪市西成区花園北2-16-26 (もと弘治小学校 1階職員室) |
| 電話番号 | 06-6632-7020 |
| 対象年齢 | 0~18歳の児童 幼児は保護者同伴 |
| 開館時間 | 平日 午前11:00~午後7:00 土 午前10:00~午後6:00 (月・木のクラブ活動のみ20時) 春・夏・冬休み 午前10:00~午後7:00 |
| 休館日 | 日曜日、開館した日曜日の翌月曜日、 祝祭日、年末年始、お盆、その他 |
| 設置・運営主体 | 社会福祉法人石井記念愛染園 |
| 利用料金 | 無料(行事の参加費は別途) |
| 活動内容 | 自由あそび(大型つみき・卓球・一輪車、 おやつづくり・工作・けん玉等) 自然体験(ハイキング・びわこキャンプ等の行事) 卓球クラブ(毎週月・木 午後5:00~8:00) 将棋クラブ(毎週火 午後5:30~6:30) クッキングクラブ(毎週金 午後5:30~6:30) |



写真 4-3.今池こどもの家 教室入口



写真 4-4.外からみた今池こどもの家

【調査 今池子どもの家 ヒアリング（1月11日）】

現在は大阪市内の全ての市立小学校において、平日の放課後・土曜日・長期休業日などに放課後の活動場所を提供している児童いきいき放課後事業（愛称：いきいき）となっているが、昔は「健っ子保育」が主流だった。働いている親の場合、子どもが小学校に上がっても働く時間は同じため、保育園のように預かってくれる場が必要だった。学校から帰って自分で家の鍵を開ける子ども（健っ子）の課題を解決する動きが起きた。

今池子どもの家もそのようないきいきとはまた違ったこどもたちの居場所という形で運営している。こどもたちと関わる上で考えることは？と尋ねると『保護者に活動を嫌だ、こどもを今池に行かせたくないと思われると、こどもとのつながりが切れてしまうため慎重に進めなくてはいけないと思っている。』と答えられた。実際に、こどもが抱えている問題は大半が家庭・親子の問題の事が多いので、なにか問題が起ったと時も臨機応変に地域や周りの施設・学校、時には警察と協力して、どのように保護者に伝えるかを良い距離感で親子の間に立ち、解決に導く場合もあるという。

幼少期から今池子どもの家に遊びに来ているある男子高校生が、「お腹すいたからこれ買って来てんけどキッチン借りてもいい？」と夕方頃にインスタントの袋めんが入ったコンビニの袋を下げて来た。いいよ。といい、しばらく調理工程の様子をみていると、袋の裏に書いてある調理方法を読まずに水ひたひたにいれた鍋に火をつける前に麺を入れた。○○さんは作り方は袋の後ろに書いてるからちゃんとそれ読んで作るんやで。と教えた。家庭で一度も作ったことがない料理、人生で一度も体験したことがない経験、誰にでもそのようなことはある。しかし、それを知らない。できないままにしておくのではなく、少しずつ覚えたり、知っていくことで自信に繋がるのだと話されていた。その日から、その少年はしばらくインスタントの袋めんを作っていたようだ。一つできることが増えたり、知らないことを知ると言うのは人間にとて大きな成長・喜びに繋がる。そのような、日常のプラスアルファを支えられる存在でありたいと話されていた。

また、生活保護を受給する際は妥当な金額ではあるが使い方のレクチャーをしないと保護者の遊びに消えるようなケースが減らない。と

キーワード

- ・いきいき活動
(健っ子保育)

- ・距離感

- ・自活能力

- ・自尊感情

- ・生活保護

話されていた。また、親の姿を見て、楽にお金が入るように見えてしまうと自立・自活能力が整わずに成長し、非常に将来性が不安な状態になる。

子どもの力は地域に必要か。その問い合わせに関しては、『おっちゃんに「そこで寝たらあかんやん！おっちゃん！」と子どもなら自然に声をかけられる。大人なら喧嘩になり兼ねないところだが、子どもたちの純粋な表現によって、おっちゃんたちも「ごめんごめん！」となりえるかもしれない。大人にできない事が子どもたちにはできる。』と子どもの力で大人には出来ない周囲への引っ張りが出来ると話されていた。

キーワード

- ・自立

- ・周りを巻き込む、引き込む力

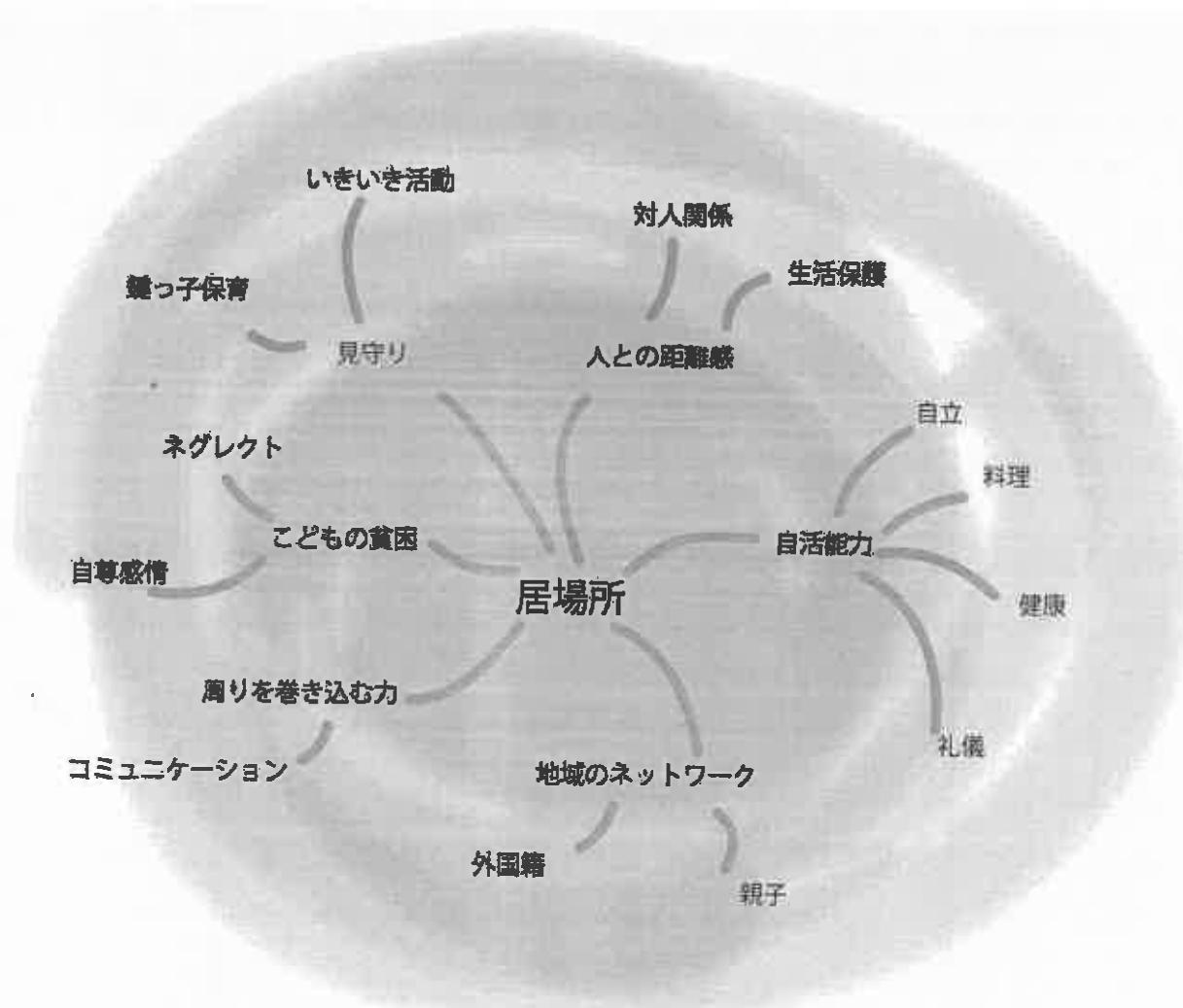


図 4-5 今池こどもの家 環境構図

2.山王こどもセンター

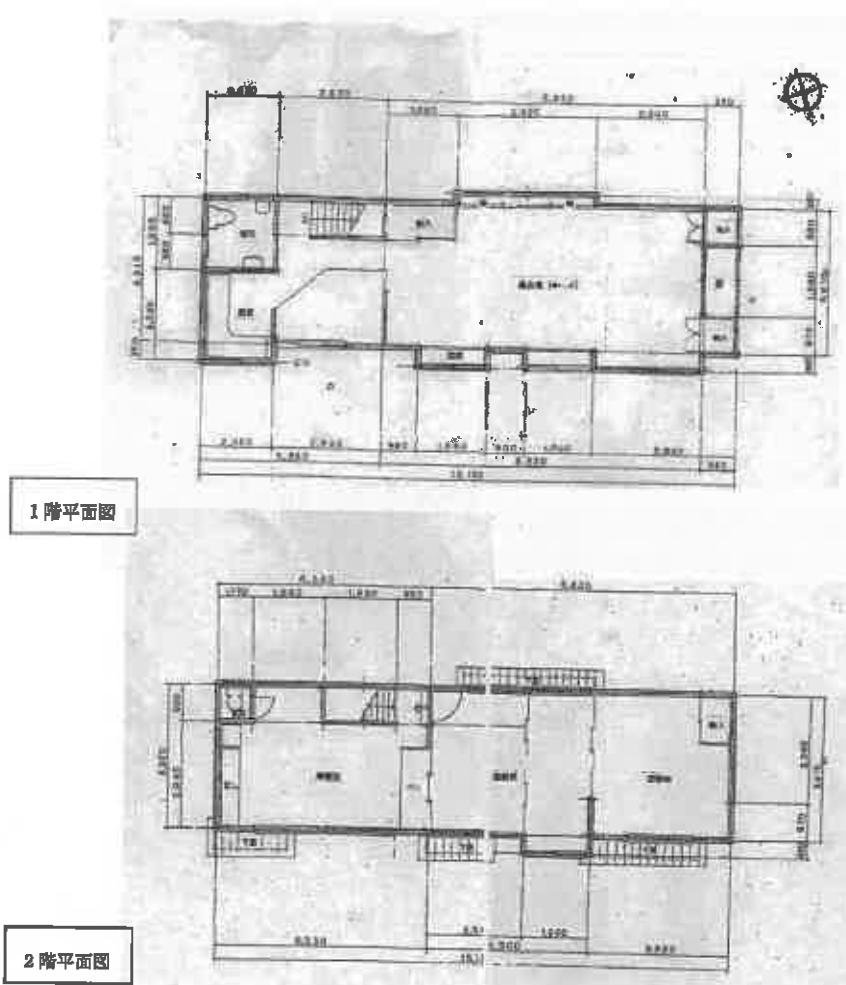
(正式名称:社会福祉法人 ストローム福祉会 E・ストローム記念山王こどもセンター)

『山王こどもセンター』はドイツ人のE.ストローム宣教師が西成の自宅で幼児を預かり、大阪市の家庭保育の家として認可を受けたことから始まり、形を変えて「現在のこども達の安全で楽しい放課後を守るため、又、保護者の方が安心して就労できるよう、地域の中に開かれた児童館」となった。他学年のこども達と暖かく見守る大人達が出会うことによって、個々のこども達の可能性を広げ、成長を育む場所として地域に根差した活動を行なっている。毎日日替わりのプログラムが組まれ、永信食堂というこども食堂やこども夜回りを行なっている。

また、2011年に『山王おとなセンター』も設立した。ここでは、元路上生活者や知的障害や精神障害、身体障害、依存症のある人たちの再出発の居場所として、行き場のない人たちを受け入れる就労継続支援事業所を開所した。従事する主な作業として、リサイクルショップの運営や封筒作りなどを行い、障害児と健常児、貧困家庭と一般家庭を区別せず、集団生活の中で伸び伸び育つことをモットーとしている。

表4-6 山王こどもセンター 概要

| | |
|---------|--|
| 所在地 | 大阪市西成区山王2-5-4 |
| 電話番号 | 06-6633-8415 |
| 開館時間 | 平日 午後1:00～午後7:00 (午後8時までのプログラムもあり) 春・夏・冬休み 平日 午前10:00～午後7:00 土 午前10:00～午後6:00 |
| 休館日 | 日曜日、祝祭日、年末年始、その他 |
| 設置・運営主体 | 社会福祉法人石井記念愛染園 |
| 利用料金 | 原則無料(行事の参加費は別途) |
| 活動内容 | (日中プログラム) 伝承・集団遊び 手作りおやつ ボール遊び クラフト・自由遊び・ヨガ教室(月1回) 遠足・園外遊び・昼食作り (夜プログラム) こども会 勉強会 夜回り |



山王こどもセンター 平面図 (45.981 m^2)



写真 4-7. 山王こどもセンター 看板



写真 4-8. 永信食堂 看板



写真 4-9. 永信食堂
ちゃんぽん・チャーハン

【調査 山王こどもセンター ヒアリング（1月10日、25日）】

この地域のこどもたちの居場所をつくっている場と山王こどもセンターの違いを訪ねてみた。『子どもの幸せっていう最終的なところは一緒やね。そのアプローチがそれぞれなだけで向かっているところは同じやと思う。』ここから、地域の居場所の多様性を感じられた。

小中一貫校のこども調査でもあるように、子どもの里・今池こどもの家・山王こどもセンターに通うこどもたちは多様な使い方をしている。こども里にしか通っていない子、平日と土日で各施設を使い分けている子、その日のプログラムによってどこにいくか決めている子、それら全ての施設に共通していえることは、来たかったらいつでもおいで、待ってるよというスタンスである。決してしんどい状態だからと言って施設に来ることを強制せず、来たいと思ってくれる人はできるだけみんな受け入れたいという体制だということが今回のヒアリングでわかった。それ故にこどもたちも自由に選択して、自分の遊び場を見つけることができる。

『昔、金塚小学校のこどもセンターに通っていない子どもの保護者に「子どものセンターは不良ばっかりやから行かせへん」と言われたことがある。中学生の柄の悪い子も確かにいたけれど、家庭の事情や学校の友達関係の事情等で学校に行けずにいる子たちの行き場、居場所に子どもセンターがなるならそんな良いことはないと思う。公園でたむろしてタバコを吸うぐらいならこどもセンターにきてと思う。昨日ちょうど今年成人式やった子がきてて、16歳のときに取り上げたタバコ6箱ぐらい返したわあ。』とエピソードを話して下さった。

去年の6月から開始されたこども食堂については『基本的なスタンスとしては、食べたいと思う人みんなに食べてほしい。儲けようとは思わない。気にしてないねん。』とただ来たいと思う人に来てほしいという思いが詰まっていた。ボランティアとして参加した1月のこども食堂で、野宿かどうかは分からぬが大きな荷物を持った年配の男性が「ほんとに10円でいいんですか？」と尋ねて入って来られたことがあった。話によるとその次の週も来られたという。それに関して、『私としても本当はそういう人に来てもらいたい。子どもがよっぽど嫌いなら仕方ないけれど、玉出の冷たい弁当を家で一人で食べるなら、こどもたちがわいわいした普通の食堂とはまた違う雰囲気で食事をす

キーワード

- ・子どもの幸せ

- ・居場所の多様性

- ・選択の自由

- ・居場所がない子どものたちの居場所

- ・こども食堂